

目次

2019年秋～2021年初夏 新刊のご案内	2
これから刊行する書籍のご案内	22
テキストのご案内	29
雑誌「日本文学」発売中	34
製作協力した電子学術雑誌	34
ウェブマガジン 未草のご案内	35
電子教科書について	36

未 発

2021年 春夏

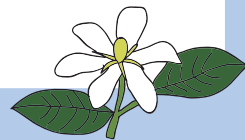
ジ ュ ニ ア 版

【ひつじ書房新刊・近刊案内】

房主より

コロナ禍の中、紙の目録をお届けすることは必要なのか、と何度か考えました。紙の目録は、手に取って目で見て、一覧で見ることができます。ネットでの検索は、キーワードを入れて、検索して何かをピンポイントで見るといことが可能です。それとは違って、紙の冊子ですと斜め読みをした場合も視野に触れることができ、探していない情報も見つかるかも知れません。結局、何も見つからないかもしれません。効率的ではないかもしれません。手に取らなければ、中を見ることもありません。送る側からすると見てもらえるかどうかは、たいてい場合は〈運任せ〉ということで、見る側は〈気分まかせ〉かも知れません。書籍自体にもいえることですが、フェチな感覚を持っていないと紙の冊子を開いて見てみようという気持ちにならないかもしれません。フェチな感覚は、経験によって育まれるものなのではないかと思えます。

どうぞ、紙のこの目録をご覧ください。今回の目録は、この数年、頑張って作ってきたものの収穫といえる書籍が入っています。一気に本という成果になりましたことはありがたいです。新しいトレンドもあると思います。いろいろと発見があるのではないのでしょうか。何かが見つかることを祈っています。見つからない場合は、どうぞその企画を打診・提案して下さい。紙の目録は、大事と思っておりますが、ひつじ書房のウェブサイトにも、電子版はおいておきます。そちらもどうぞご覧ください。電子的媒体なので検索もできます。



Twitter フォローお願いします！
5000 フォローを希望します。



ひつじ書房
@hituzi_gusa



https://twitter.com/hituzi_gusa

ひつじ書房

〒112-0011 東京都文京区千石 2-1-2 大和ビル 2F

<https://www.hituzi.co.jp/> e-mail toiawase@hituzi.co.jp

tel 03-5319-4916 fax 03-5319-4917



2019 年秋～ 2021 年初夏 新刊のご案内

💡 印のついているものは、2020 年秋以降刊行の新刊です。

ひつじ研究叢書(言語編)

第 156 巻 語彙論と文法論と

村木新次郎著 A5 判・616 頁・978-4-89476-936-6 定価 8,800 円＋税 発行 2019. 10

語彙と文法とのかなめになるのは、単語である。単語の語彙的な意味の体系性を問うのが語彙論であり、単語がくみあわさって、文をつくる文法(形態論と統語論と形態統語論)の体系性を問うのが文法論である。昨今の日本語研究では、「文法と意味」「シンタクスと意味」という姿勢が主流に見える。そこでは、単語が等閑視され、形態論が軽視されている。本書は、日本語の単語と形態論をめぐる諸問題をあつかう。言語間の対照にもいいおよぶ。



第 159 巻 江戸語資料としての後期咄本の研究

三原裕子著 A5 判・516 頁・978-4-89476-959-5 定価 8,800 円＋税 発行 2019. 12

従来、後期咄本は江戸語資料としての価値を認められることが少なかった。しかし一方で、当時既に古臭さ・尊大さを想起させる「ござる」、婉曲な拒絶を表す「一昨日来い」等の様々な実例が見られ、市井の会話が得られる資料と言える。本書はこれらの実例から〈表記変化を促すもの〉〈類型化と使用層の変化〉等、表記・語彙・語法他の視点から、江戸語が上方語的要素を脱し、独自の発展を遂げた変化の要因を論じるものである。



第 160 巻 認知言語学の最前線 山梨正明教授古希記念論文集

児玉一宏・小山哲春編

A5 判・416 頁・978-4-89476-993-9 定価 9,800 円＋税 発行 2021. 5 💡

長く日本の認知言語学研究を牽引する山梨正明教授の古希を記念して編まれた論文集。認知言語学の分野の最前線で活躍する研究者を執筆者に迎え、いま研究の最先端で何が行われているかを紹介するとともに、今後の課題を示し、これからの認知言語学研究の礎となる書。執筆者：ロナルド・W・ラネカー、吉村公宏、高橋英光、野村益寛、中村渉、堀江薫・江俊賢、榎山洋介、菅井三実、谷口一美、早瀬尚子、大森文子、八木橋宏勇、松本曜、大月実、森雄一、篠原和子、堀田優子、渋谷良方



第 161 巻 文脈情報を用いた文章理解過程の実証的研究

学習者の母語から捉えた日本語理解の姿

石黒圭編 A5 判・260 頁・978-4-8234-1007-9 定価 6,800 円＋税 発行 2020. 1

「家の奥」ってどこ? 「若干名」って何人? 「小枝を拾って食べる?」「観光地のソフト」と「ソフトの朝練」の「ソフト」は同じ? 「名前を控える」と「お酒を控える」は? 日本語学習者の頭のなかで起きている意味の理解という不思議な現象を、母語による分析からあぶり出し、その語彙推測能力や文脈把握能力に迫る画期的論文集! 執筆者: 井伊菜穂子、石黒圭、烏日哲、赫楊、Nguyen Thi Thanh Thuy、田中啓行、Dang Thai Quynh Chi、張秀娟、布施悠子、宮内拓也、蒙韞、劉金鳳



第 162 巻 日本語文法史の視界 継承と発展をめざして

高山善行著 A5 判・304 頁・978-4-8234-1008-6 定価 6,400 円＋税 発行 2021. 3 💡

本書は、日本語文法史の開拓的研究をまとめたものである。古代語の助動詞を中心に、現代語との対照の観点から基礎的、実証的研究を行なっている。「名詞句」「モダリティ」「疑問文」「配慮表現」を取り上げ、それぞれの研究において新しい視点、分析方法を提示する。また、「とりたてとモダリティ」「テンス・アスペクトとテキスト構造」など、研究テーマの接続も試みる。この分野の研究領域を見通し、領域拡張の基点となる書。



第163巻 三重県尾鷲方言のアクセント研究

平田秀著 A5判・192頁・978-4-8234-1009-3 定価7,300円＋税 発行2020.1

三重県尾鷲市尾鷲方言のアクセント体系について、フィールドワークにもとづいて詳細に記述する。尾鷲方言のアクセント体系は、3つの「式」の対立をもつ点、単独形では高い音調をもつ語が音環境によって低く発音される「連読変調」がみられる点が、通方言的にみて特異である。尾鷲方言は、2つの式の対立をもつ京阪方言とかつては同系統であったととらえられ、尾鷲方言が3つの式をもつに至った経緯について、考察を行う。(日本学術振興会助成刊行物)



第164巻 言語と慣習性 ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態

土屋智行著 A5判・152頁・978-4-8234-1010-9 定価4,200円＋税 発行2020.2

本書は定型表現とその拡張用法の網羅的な記述・分析を通して、言語と慣習の関係を認知・社会的な側面から考察したものである。日本語慣用表現や諺をはじめとした定型性の高い表現を多く収集し、コーパス言語学の手法を用いて分析している。また「形式的変化を容認しにくい」と言われていた定型表現が様々な形式的変化を伴って使用されている事例を示し、定型的言語から創造性が発揮されるダイナミズムを理論的にまとめ上げている。(日本学術振興会助成刊行物)



第165巻 近現代日本語の「誤用」と言語規範意識の研究

新野直哉著 A5判・304頁・978-4-8234-1011-6 定価6,500円＋税 発行2020.2

本書は、副詞“全然”に関する昭和10～20年代を中心とした学界・一般社会双方における規範意識の考察や、現代日本語における「誤用」の定番例として知られている“気がおけない”・“世間ずれ”・“名前負け”等の使用実態と言語規範意識についての考察を行い、さらに昭和戦前～20年代の日本語の実態とそれに関する言語規範意識の研究に役立つ新資料の紹介およびそれを用いた研究の実例をも示したものである。(日本学術振興会助成刊行物)



第166巻 東北方言における述部文法形式

竹田晃子著 A5判・304頁・978-4-8234-1012-3 定価8,000円＋税 発行2020.2

本書は、東北方言における述部文法形式のうち、特徴的な形式が用いられる自発表現・可能表現およびテンス・アスペクト・ムードを取り上げ、共時的・記述的な観点による臨地面接調査、話者の属性差に注目した社会言語学的調査、明治から平成まで約百年間の方言分布調査を分析し、個々の現象・形式や各方言の体系のあり方および地理的分布が形成される過程の解明をめざしたものである。(日本学術振興会助成刊行物)



第167巻 英語中間構文の研究

吉村公宏著 A5判・336頁・978-4-8234-1013-0 定価7,200円＋税 発行2020.2

理論を問わず、英語中間構文は人気のあるテーマである。しかしながら、看過されてきた問いは、能動と受動の中間がなぜ「属性」を表現するのか、そのときの属性とはそもそも何か、という根源的な問いである。本書は伝統文法、生成文法、認知文法の研究成果を総括し、上記の問いに認知意味論的視点から切り込む。多数の実例データを駆使し、新しい説明原理によってその本質に迫る。認知意味論・語彙・構文・語法の研究者には必見の一冊。(日本学術振興会助成刊行物)



第168巻 共同注意場面による日本語指示詞の研究

平田未季著 A5判・244頁・978-4-8234-1014-7 定価6,400円＋税 発行2020.2

本書は、日本語母語話者が目の前の対象へ共同注意を確立するために行うやりとりを観察し、それに基づいたコ系・ソ系・ア系の新たな意味論および語用論的分析を提示する。近年の海外の指示詞研究で注目されている「聞き手の注意の状態」などより相互行為的な要因を分析に導入し、直示用法、テキスト内用法、またコ系・ソ系・ア系に後接する「-レ」、「-コ」などの接尾辞も含め、相互行為場面に根差した統合的な日本語指示詞研究を行う。(日本学術振興会助成刊行物)



第169巻 **ビジネス文書の応用言語学的研究**

クラウドソーシングを用いたビジネス日本語の多角的分析

石黒圭編 A5判・322頁・978-4-8234-1016-1 定価7,200円＋税 発行2020.2

生きたビジネス文書をネット上からコーパスとして取り出せる時代が到来した。クラウドソーシングをデータベースとし、日本語の国立国語研究所とAIの富士通研究所のコラボで、ビジネス日本語の諸問題と改善法を実証的に明らかにした、新境地を開拓する論文集！ 執筆：青木優子、浅井達哉、石黒圭、市江愛、井上雄太、岩崎拓也、岩田一成、赫楊、喬曉筠、熊野健志、佐野彩子、蒙韞、布施悠子、アンドレイ・ペケシュ



第170巻 **学際的科学としての言語学研究** 吉田光演教授退職記念論集

田中雅敏・筒井友弥・橋本将編

A5判・416頁・978-4-8234-1017-8 定価12,000円＋税 発行2020.3

本書は、広島大学大学院総合科学研究科教授吉田光演先生が、2020年3月に定年を迎えられるに際し、国内外のドイツ語学・言語学研究者が寄稿した記念論文集である。吉田教授は、言語学者・教育者として多大な功績を残され、多くの言語を対象に専門分野は多岐にわたる。本書に収録された論文は、音韻論、統語論、意味論、語用論から言語教育、コーパス言語学、通訳理論まで様々な分野に広がっており、言語学研究の学際性を例証するものである。



第171巻 **「重複」の文法的研究**

程莉著 A5判・160頁・978-4-8234-1018-5 定価4,000円＋税 発行2020.8

表現の重複は、「量の公理違反」という語用論の問題でしかないのだろうか？ 実際には、重複表現は言語の至るところに遍在しており、その自然さは、言語によって、また構文によって異なる。「冗長性」として忌避される重複だけでなく、許容される重複、好まれる重複、果ては「一致」「呼応」「同族目的語」「係り結び」の名のもとに文法システムに取り込まれて必須のものとなる重複まで、さまざまなものがある。本書は、現代日本語と現代中国語における重複表現の自然さを、文法の観点から記述分析し、重複と文法の間関係を明らかにした。



第172巻 **連濁の規則性をもとめて**

平野尊識著 A5判・216頁・978-4-8234-1019-2 定価4,800円＋税 発行2021.5💡

複合語における連濁形・非連濁形の生起を規則によって説明する試みである。その前提として、右枝条件など連濁を阻止する制約を再吟味するとともに、世界の言語の複合語の構成を概観した。複合語化には前項と後項を結び付ける要素の存在が必要なこと、このような要素はかつて日本語にも存在し、それが連濁の発生へと繋がったことを指摘した。また、規則化の問題点が明らかになったことから、連濁研究の今後の方向性を示したと言える。



第175巻 **テキスト語彙論** テキストの中でみることばのふるまいの実際

高崎もどり著 A5判・248頁・978-4-8234-1054-3 定価4,800円＋税 発行2021.3💡

本書は、実際のテキストの中での語の働き・ふるまいを観察し、テキストの展開と関係づけて論じるテキスト分析をめざしている。“テキスト構成”や“語彙的結束性”といったテキスト分析の概念を、語の辞書的“意味”の捉え直しや、近代語テキストにおいて重要性を増す“漢語”や“名詞”の役割、コ系やド系指示語の機能の再発見等と関連づけて具体的に論じ、文体論やCDA(批判的ディスコース分析)にも目配りしている。




第177巻 **日本語複文構文の機能論的研究**

田中寛著 A5判・434頁・978-4-8234-1057-4 定価8,800円＋税 発行2021.2💡

日本語の複文を構文の複合体としてとらえ、その談話環境及び展開の諸相を機能論的角度から論じた。ナラを始めとする条件構文の体系的見直し、動詞の接続辞表現、トアッテとニアッテ、ダケニとダケアッテの意義づけを行うほか、ナカ時間節の事態誘導の機能に深く関与する点、形態的機能的に多岐にわたる比較・並列・対比表現の考察などを加える。『日本語複文表現の研究』、『複合辞からみた日本語文法の研究』に続く複文研究の集大成。



第178巻 日本語における短縮外来語の形成とその仕組み

文視允著 A5判・164頁・978-4-8234-1061-1 定価5,000円＋税 発行2021.2 

本書は、複合外来語を元にする短縮語形成(例えば「デジタル・カメラ」が「デジカメ」となる現象)の仕組みについて扱うものである。先行研究では、専ら理論的な分析がなされている一方で、その説明に実証的な裏付けは与えられていない。本書では、データベースの分析及び実験により、短縮語形成を制御する要因を明らかにする。具体的には、音韻的要因(音節構造や同音連続)に加え、言語使用者の選好傾向が影響していることを主張する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



第179巻 壁塗り代換をはじめとする格体制の交替現象の研究


位置変化と状態変化の類型交替

川野靖子著 A5判・296頁・978-4-8234-1062-8 定価5,800円＋税 発行2021.2 

「壁にペンキを塗る／壁をペンキで塗る」のような格体制の交替現象は、壁塗り代換と呼ばれ広く知られているが、この現象はどのような仕組みで起こるのか。本書では、壁塗り代換とその関連現象を体系的に記述し、「意味類型の階層モデル」を用いて成立原理の統一的な説明を試みる。英語の locative alternation 研究との比較、ヴォイスや多義語との原理的な相違にも議論が及ぶ。一冊まるごと現代日本語の壁塗り代換を論じた、初の研究書。〈日本学術振興会助成刊行物〉




第180巻 環大阪湾地域におけるアクセント変化の研究

山岡華菜子著 A5判・258頁・978-4-8234-1063-5 定価6,800円＋税 発行2021.2 

京阪式アクセントはアクセント研究の中心をなしてきた分野であるが、その中心の京都から諸地域に範囲を広げると、あまり注目されてこなかった地域や興味深いアクセント変化が観察される。本書では、淡路、明石、鳴門、岸和田、和歌山県橋本、高知などの環大阪湾地域のアクセントやアクセント変化の傾向を、筆者の調査の結果を基に、アクセント史もふまえて明らかにする。また、その特徴を京阪式アクセントの史的変遷の上に位置づける。〈日本学術振興会助成刊行物〉




第181巻 述語と名詞句の相互関係から見た日本語連体修飾構造

三好伸芳著 A5判・284頁・978-4-8234-1064-2 定価7,000円＋税 発行2021.3 

従来、連体修飾要素の機能は被修飾名詞句の指示性によって決定されるとされ、「定／不定」といった区別が素朴に連体修飾構造の分析に適用されることが多かった。しかし、実際には、そのような一般化に当てはまらない例が体系的に存在する。本書では、日本語の連体修飾構造に見られるさまざまな文法的振る舞いの包括的分析を通じ、連体修飾要素の機能、述語の内包性、名詞句の指示性といった意味論的な概念について、新たな理論的枠組みの提示を試みる。



第184巻 現代日本語の「ハズダ」の研究

朴天弘著 A5判・296頁・978-4-8234-1083-3 定価6,700円＋税 発行2021.3 

現代日本語の「ハズダ」について、様々な用法を細く分類するだけでは、「ハズダ」の本質が見えにくくなる恐れがある。本書では、「話し手が持っているある情報(知識)に対して、それに反する、またはギャップが感じられる状況が起きる場合」という「ハズダ」の使用条件を提示し、「知識確認」という機能が「ハズダ」の意味機能であることを新たに導入することで「ハズダ」の解釈に統一的な答えを見出した。



講座 言語研究の革新と継承 [全8巻]

4 認知言語学 I

池上嘉彦・山梨正明編

A5判・420頁・978-4-89476-670-9 定価4,200円＋税 発行2020.2

認知言語学の体系は少しずつ形をとり始め、その過程は現在もまだ進行中と言ってよい。そこには、その若さの故の不確かさも多く内蔵されているが、新しいことの起こりうる可能性も豊かに内包している。「百花繚乱」とも言える認知言語学研究の各テーマを、第一線で活躍する研究者が解説する。執筆者：山梨正明、崎田智子、堀江薫、金杉高雄、守屋三千代、李在鎬、小松原哲太、安原和也、澤田淳、米山三明、杉本孝司、仲本康一郎、井上京子、黒滝真理子、吉村公宏、森雄一



5 認知言語学 II

池上嘉彦・山梨正明編

A5判・436頁・978-4-89476-671-6 定価 4,200円＋税 発行 2020.2

認知言語学の体系は少しずつ形をとり始め、その過程は現在もまだ進行中と言ってよい。そこには、その若さの故の不確かさも多く内蔵されているが、新しいことの起こりうる可能性も豊かに内包している。「百花繚乱」とも言える認知言語学研究の各テーマを、第一線で活躍する研究者が解説する。執筆者：池上嘉彦、早瀬尚子、野村益寛、進藤三佳、黒田一平、大堀壽夫・秋田喜美、深田智、菅井三実、鍋島弘治朗、木原恵美子、碓井智子、大月実、大谷直輝、高橋英光、坪井栄治郎、友澤宏隆、有光奈美

シリーズ既刊

1 日本語語彙論 I 斎藤倫明編

2 日本語語彙論 II 斎藤倫明編



Hituzi Linguistics in English

No.29 An Affect-Oriented English Pronunciation Instructional Design for Japanese University Students

中條純子著 菊判・198頁・978-4-89476-922-9 定価 11,000円＋税 発行 2020.3

日本人大学生の英語音声の向上を目的としたインストラクショナルデザイン(教育設計)を提起し、実際の教材の開発過程を通して得た知見を授業改善に応用することで、口頭コミュニケーション能力の向上を目指す。特に学習者の情意領域(学習者の教育内容に対する態度、価値観の形成を行い、外国語学習を促進または妨げる要因を持つ領域)に注目し、英語音声面に対する心理的障壁を取り除くことを重視した教材の開発の戦略と方法を論じる。



No.31 Tag Questions and Their Intersubjectivity

A Cognitive Linguistic Approach


中谷博美著 菊判・122頁・978-4-8234-1023-9 定価 8,800円＋税 発行 2020.2

本書は、認知言語学的アプローチにより、付加疑問文の本質に迫ろうとするものである。先行研究では、用法の列挙と規則の提示に留まっており、用法間の関係や構造の変化を伴う事例に説明を与えていない。本書では、実際の使用例を認知文法の「現行談話スペース(Current Discourse Space)」と「Anchoring Structure」の概念に基づいて分析し、なぜ多様な意味機能と形式を持つのか、何が構造に変化を生じさせるのかを付加疑問文の持つ問主観性から明らかにしていく。

〈日本学術振興会助成刊行物〉



No.32 Biliteracy in Young Japanese Siblings

谷口ジョイ著 菊判・208頁・978-4-8234-1068-0 定価 9,800円＋税 発行 2021.2 

本書は、海外生活により複言語環境にあった日本語を母語とする子どもの第二言語能力が、帰国後どのように変化するかを、長期にわたり質的に記述したものである。帰国児童が海外で身につけた英語の能力を、リテラシーという観点から捉え、兄弟姉妹とその家族を継続的に調査、観察することで、保護者の意識、子どもたちの日常的なリテラシー活動、人的ネットワークなど子どもたちを取り巻く社会的要因について明らかにする。〈日本学術振興会助成刊行物〉



No.33 The Pragmatics of Clausal Conjunction

長辻幸著 菊判・178頁・978-4-8234-1069-7 定価 9,800円＋税 発行 2021.2 

本書では、日英対照の視点から、節連言構造の解釈メカニズムの解明とそのモデル化により、当該現象の全体像における核心部を明らかにする。節レベルの要素を等位的な接続表現でつなぐ節連言構造として、英語のand連言文とそれに対応する日本語の複数の構造を認知語用論の枠組みに基づいて分析する。そのうえで、節連言構造の解釈に貢献する根本的な特性を抽出し、当該現象を統一的かつ包括的に説明できる新たなアプローチを示す。〈日本学術振興会助成刊行物〉



No.34 A Cognitive Linguistic Approach to Japanese Grammatism

井原浩子著 菊判・154頁・978-4-8234-1070-3 定価 9,200円＋税 発行 2021.3 

本書は日本語の失文法に見られる助詞「が」、「を」、「に」、「から」の誤用について、主に授受動詞や受動文を用いた産出実験結果に基づき、認知言語学の視点から説明を試みる。また、それらと類似した幾つかの現象(子供の言語獲得過程で見られる助詞の誤用、口語体における助詞の省略、健常者の言い誤りに見られる助詞の誤用)を取り上げ、失文法の場合と比較することから見いだせる共通性と相違が何に起因するのかを考察する。



日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す [全3巻]

日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第1巻

「する」の世界

庵功雄・田川拓海編

A5判・248頁・978-4-89476-781-2 定価 4,000円＋税 発行 2019.10

シリーズ第1巻。本巻では、「する」(ル形)に関する研究を集めた。「する」が未来を表す条件、心理動詞における「する」と「している」、「する・した・している」の意味論、形態論から見た「する」、他言語における未来と接続法の関係および「する」と「している」の関係など、テンス・アスペクト・ムードに関わる「する」の特徴を多面的に捉える。執筆者：有田節子、庵功雄、伊藤龍太郎、井上優、高恩淑、田川拓海、仁田義雄、和佐敦子



日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す 第2巻

「した」「している」の世界

庵功雄・田川拓海編

A5判・332頁・978-4-89476-782-9 定価 4,200円＋税 発行 2021.3 

シリーズ第2巻。本巻では、「した」「している」に関する研究を集めた。「した」の形態論、副詞句のタイプとテンス形式、テンス・アスペクト体系とテンス形式、日英語のナラティブとテンス形式、東北方言から見た「した」とムード、英語の「した」、テイルの1つの意味、知識と体験、体感から見た「した」と「している」、無標否定形式「していない」、ムード表現としての「している」、史的研究から見た「している」および「した」、など、テンス・アスペクト・ムードに関わる「した」「している」の特徴を多面的に捉える。執筆者：有田節子、庵功雄、岩本遠徳、奥川育子、高田祥司、定延利之、田川拓海、高山善行、福嶋健伸、松田真希子、和田尚明



真田信治著作選集 シリーズ日本語の動態 [全4巻]

第4巻 ことばの習得と意識

真田信治著 四六判・176頁・978-4-89476-918-2 定価 1,800円＋税 発行 2019.9

「日本語の動態」に関するシリーズの第4巻である。本書では、ことばと文化の相関、第1言語の習得、母語への態度、理解語彙の習得過程、個人語彙の基底層と年齢的推移、ことばの喪失などをめぐって、著者の既発表の研究論稿をセレクトし集成した。記述の内容はいずれも国語教育、日本語教育に当たって基本的に踏まえておくべき事柄である。国語教育、日本語教育に携わる人だけでなく、一般の方々に是非とも読んでいただきたい。



シリーズ既刊

第1巻 標準語史と方言

第2巻 地域・ことばの生態

第3巻 アジア太平洋の日本語

36 日本語教育における「のだ」の研究

戴宝玉著 A5判・280頁・978-4-89476-864-2 定価4,200円＋税 発行2020.4

本書は、日本語学習者にとって最も習得困難な表現の一つであるノダを包括的に扱い、ノダの全体像を掴むことを試みる。ノダを先行形態を必要とするものと必要としないものの二つにわけ、後者を前者の拡張したものと捉えることによって、一見無秩序に見えるノダの多様な意味を統一的に解釈することが可能になった。外国人日本語教師という筆者の立場から、本書における研究が教育現場でも役立つよう配慮した。



38 文学教材を用いた英語授業の事例研究

久世恭子著 A5判・408頁・978-4-89476-987-8 定価8,000円＋税 発行2019.10

実際の大学授業事例から英語教育における文学教材の意義を再検討した研究書。本書では、日本の英語教育における文学教材の立ち位置を歴史的に確認し、英米での歴史や理論を踏まえた上で、これまで余り明らかにされてこなかった授業展開や学習者の反応を分析しデータとして示している。コミュニケーション能力育成やESP (English for specific purposes) を重視した授業での文学教材利用の可能性も追究する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



39 日本語教育におけるメタ言語表現の研究

李婷著 A5判・368頁・978-4-8234-1021-5 定価7,200円＋税 発行2020.1

「～さんのおっしゃったとおり」、「話かわるけど」などの前置き表現、つまりメタ言語表現の学習とコミュニケーションのメタ認知の向上を結びつける日本語教育を提案。日本語学習者の視点を基に、メタ言語表現の学習の意義を捉え直した上で、豊富な談話資料より収集したメタ言語表現を分析する。初級日本語クラスでの学び、インタビューで得られた学習者の語り、待遇コミュニケーション論と文章・談話論に基づいた分析、いずれも日本語教師や日本語教育研究者に有益である。



40 日本語教育の新しい地図 専門知識を書き換える

青木直子、バーデルスキー・マシュー編

A5判・340頁・978-4-8234-1022-2 定価5,000円＋税 発行2021.3

国境を越えた移動の急増とインターネットとモバイル技術の普及により、日本語学習のあり方が大きく変化した。学習者の役に立つには、日本語教師にはどのような専門知識が必要か。本書では言語と学習についての従来の常識を問い直し、グローバルな視点から新たに教師教育を考え直す。執筆：青木直子、バーデルスキー・マシュー、リー・ウェイ（翻訳：井上エイミー）、百濟正和、義永美央子、西口光一、マリー・ギャロルド、宇塚万里子、難波康治、ケリー・カーティス（翻訳：富田キアナ）、宮原万寿子、八木真奈美、入江恵、中山亜紀子、柴原千佳、クラムシュ・クレア、川嶋恵子、中井好男、脇坂真彩子、欧麗賢、濱川祐紀代、瀬尾悠希子、末吉朋美



41 漫画に見られる話しことばの研究 日本語教育への可能性

福池秋水著 A5判・212頁・978-4-8234-1015-4 定価5,000円＋税 発行2020.2

東京を中心とした首都圏の話しことばは、首都圏方言と呼ばれ、多くのドラマ、漫画などの作品で用いられるほか、日本語の会話教育でも取り入れられることがある。本書では、主に漫画作品を対象として、ラ行音の撥音化(わからない→わかんない)等、首都圏方言の表現のゆれがどのように使い分けられているかに関する観察を行った。日本語学習者の表現の幅を広げる支援を行うための基礎研究となることを目指す。




42 外国語としての日本語の実証的言語習得研究

玉岡賢津雄編 A5判・208頁・978-4-8234-1058-1 定価5,000円＋税 発行2021.3

これまで日本語や外国語の習得研究は、事例を使った「直感」的な研究が多かった。しかし、特定の表現だけで現象を説明しようとすると、視点が偏りがちになる。そこで本書では、「直感」で推論された仮説を、コーパス、テスト、実験などで集めたデータを統計的に解析して「実証」というアプローチの研究を、詳細な解説を含んで8つ掲載した。執筆：王蕾、斉藤信浩、張婧禕、初相娟、早川杏子、母育新、毛文偉、大和祐子



43 日本語学習者による多義語コロケーションの習得

大神智春著 A5判・280頁・978-4-8234-1067-3 定価 6,800円＋税 発行 2021.2 

本書は、学習者が多義動詞「とる」を中心語とするコロケーションの習得過程において、どのような中間言語を形成しているか解明することを目的とした。研究に当たっては、学習者の中間言語を典型化、一般化、差異化の観点から複合的に捉えることを試みた。また、研究結果を日本語教育のコロケーション教材開発に活かすことを目指し、教材作成過程における留意点や練習問題の在り方等を提言した。〈日本学術振興会助成刊行物〉



英語コーパス研究シリーズ(堀正広・赤野一郎監修)[全7巻]

第1巻 コーパスと英語研究

堀正広・赤野一郎編

A5判・280頁・978-4-89476-711-9 定価 3,200円＋税 発行 2019.10

英語コーパス学会 20周年を記念した網羅的なコーパス研究シリーズ「英語コーパス研究」第1巻。本巻は日本における英語コーパス研究の始まりと現状についての詳細な資料に基づいた分析と「私のコーパス利用」において様々な英語研究の方法を提示した論考からなっている。英語コーパス研究の過去・現在・未来について概観することができる。シリーズ総索引付。



シリーズ既刊

第2巻 コーパスと英語教育 投野由紀夫編

第3巻 コーパスと辞書 赤野一郎・井上永幸編

第4巻 コーパスと英文法・語法 深谷輝彦・滝沢直宏編

第5巻 コーパスと英語文体 堀正広編

第6巻 コーパスと英語史 西村秀夫編

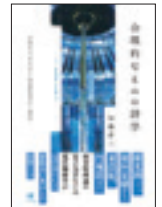
第7巻 コーパスと多様な関連領域 赤野一郎・堀正広編

ひつじ研究叢書(文学編)

12 合理的なものの詩学 近現代日本文学と理論物理学の邂逅

加藤夢三著 A5判・384頁・978-4-8234-1025-3 定価 5,600円＋税 発行 2019.11

近現代日本文学の書き手たちは、同時代の理論物理学やその周辺領域の学知に、どのような思考の可能性を見いだしていたのか。「合理」的なものの見方を突き詰めていたはずの作家たちの方法意識が、時として「非合理」的な情念へと転化するのはどうしてなのか。本書は、その総合的な表現営為のありようを検討することを通じて、モダニズムの文芸思潮から今日のサイエンス・フィクションにいたるまでの芸術様式の系譜を再考することを試みたものである。



未発選書

27 女性作家は捉え返す 女性たちの物語

西田谷洋著 四六判・416頁・978-4-8234-1047-5 定価 3,600円＋税 発行 2020.9 

児童文学の女性作家たちはどのような物語を紡ぎ出したのだろうか。児童文学は一見子供向けとされるが、実際には別世界への飛翔だけでなく、時にメランコリックで無気力な人物を描き、死や記憶にまつわる物語が編まれていた。本書は、教科書教材に採用されることも多い安房直子・あまきみこ・小川洋子の作品と共に、吉本ばなな・山内マリコの小説、岡田麿里脚本のアニメ、香魚子の少女漫画を取り上げ、女性児童文学の様相を探る。



28 マンガ学からの言語研究 「視点」をめぐって


出原健一著 四六判・260頁・978-4-8234-1048-2 定価 3,500円＋税 発行 2021.3 

認知言語学とマンガ学。一見、関連性がないように見えるが、実はどちらも「視点」がキーワードとなっている。認知言語学では主観的な視点と客観的な視点が主に議論されるが、マンガにはさらに多様な「視点」が存在する。本書ではマンガ学の視点概念を用いて、日本語のルビと英語の自由間接話法を中心に分析し、言語研究全般に援用できるよう新たな視点理論の提案を試みる。



29 トランス・モダン・リテラチャー

「移動」と「自己」をめぐる芥川賞作家の現代小説分析

疋田雅昭著 四六判・580頁・978-4-8234-1094-9 定価 5,800円＋税 発行 2021.5 

「自己」が近代文学が拘り続けたテーマであることは言を俟たないが、現代文学は統一され安定した「自己」そのものへの不信から始まっている。ともに時空を「移動」し続ける存在としての読者とテキストが出会う結節点。そこから変容しながらも繰り返し立ち上がってくる主体こそが現代文学が語る「自己」にほかならない。本書は「自己」と「移動」に着目し芥川賞受賞作家のテキストから平成という時代の諸相を読み込む試みである。



[研究プロジェクト] 時間と言語 文法研究の新たな可能性を求めて


益岡隆志監修 定延利之・高山善行・井上優編

A5判・352頁・978-4-89476-992-2 定価 6,200円＋税 発行 2021.2 

日本語文法研究の新たな展開を目指す共同研究プロジェクトの成果報告論集。日本語文法研究において最も実績のある研究課題の1つであるアスペクト・テンスについて、現代日本語共通語・文法史・対照研究の3つの観点から多角的にアプローチするとともに、アスペクト・テンス体系と談話・テキストにおける運用のインタラクションを探究する。執筆者：益岡隆志、定延利之、高山善行、井上優、羅米良、羅希、小林ミナ、藤井俊博、西田隆政、石出靖雄、渡邊淳也、和田尚明、金善美



発話の権利

定延利之編 A5判・244頁・978-4-89476-983-0 定価 2,900円＋税 発行 2020.12 

車が動かないのは、運転手がペダルを踏み間違えているからである。それを見つければ車内の誰でも「あ、ブレーキ踏んでる！」と言える。だが、「あ、ブレーキ踏んでた！」は基本的に運転手しか言えない。この運転手の「特権性」はどこから、どのように生じるのか？ 語用論、会話分析、人類学、動物行動学の第一線の研究者たちの「答」がここにある。執筆者：木村大治、申田秀也、定延利之、園田浩司、高梨克也、中村美知夫、細馬宏通、村田和代（読売新聞書評掲載）



日本語の乱れか変化か これまでの日本語、これからの日本語

金澤裕之・川端元子・森篤嗣編

A5判・272頁・978-4-8234-1037-6 定価 3,800円＋税 発行 2021.2 

ルールからの逸脱というとは一般にはネガティブに捉えられることが多い。しかし歴史や文化の実際の流れから見ると、それこそが新しい時代やトレンドを生み出す原動力となっていることも多い。日本語における過去や現在進行中の変化を多様な面から取り上げ、ことばの「乱れ」「正しさ」「変化」といったものを、動的な視点から見つめ直す試みの1冊。執筆者：岡田祥平、尾崎喜光、金澤裕之、川端元子、金愛蘭、野田春美、橋本行洋、松田謙次郎、蓑川恵理子、森篤嗣、山田敏弘、横山詔一



「中納言」を活用したコーパス日本語研究入門

中俣尚己著 A5判・208頁・978-4-8234-1059-8 定価 1,800円＋税 発行 2021.4 

コーパス検索アプリケーション「中納言」の初の解説書。3部構成。第1部「検索してみよう」では「中納言」での検索の仕方や様々な機能について解説する。第2部「分析してみよう」では結果をダウンロードした後、表計算ソフトやテキストエディタを活用し、どのように結果を集計、数値を比較すれば良いかを解説する。第3部「研究してみよう」ではどのようにコーパス研究を行うべきか、また、レポート・論文にまとめる上での注意点を事例をもとに解説する。



ビジネス文書の基礎技術 実例でわかる「伝わる文章」のしくみ

石黒圭・熊野健志編

四六判・208頁・978-4-8234-1085-7 定価 1,400円＋税 発行 2021.3 

ビジネス文書の書き方を見よう見まねで学ぶ時代は、もはや過去のものとなった。本書は、ビジネス文書のコーパスから豊富な具体例を抽出、それを言語学的な観点から丁寧に分析し、優れた文書の特徴を明らかにした新しいタイプの実用書である。就活中の学生や企業に勤めたばかりの新入社員、企業の日本語研修担当者やビジネス日本語教師、いずれにもオススメ。執筆者：青木優子、浅井達哉、井伊菜穂子、石黒圭、井上雄太、岩崎拓也、熊野健志、佐野彩子、鈴木英子、田中啓行、布施悠子、アンドレイ・ベケシュ、蒙韞、柳瀬隆史、横野光



日本語文法史キーワード事典

青木博史・高山善行編

四六判・164頁・978-4-89476-966-3 定価 2,000円＋税 発行 2020.12 

文法史研究は、現在、日本語学の中で最も活気のある分野の一つである。ただし、多様な研究成果が公表される一方で、細分化・専門化により研究の全体像が見えにくくなってきている面もある。本書は、日本語文法史の世界を俯瞰し、読み解く道標として77のキーワードを精選し、簡明に解説をおこなったものである。専門的な研究者のみならず日本語文法史について学びたい一般読者にも最適な一冊。



日本語文法史研究 5


青木博史・小柳智一・吉田永弘編

A5判・312頁・978-4-8234-1046-8 定価 4,000円＋税 発行 2020.11 

本書は、日本語文法史研究の発展を目指して編まれた論文集の第5号である。隔年刊行であるため、取り組みを始めてから10年になる。考察の対象とするテーマや時代、方法論の如何に関わらず、文法史を記述するとはどういうことか、という課題に自覚的であり続けている。研究論文10本の他、テーマ解説、文法史の名著、研究文献目録を収めている。執筆者：青木博史、勝又隆、小柳智一、近藤要司、高山善行、竹内史郎、辻本桜介、仁科明、山口響史、吉井健、吉田永弘、渡辺由貴



全国調査による言語行動の方言学

小林隆編 A5判・356頁・978-4-8234-1071-0 定価 5,000円＋税 発行 2021.3 

荷物運びを手伝ってもらいたいとしたら、どのような頼み方をするだろうか。おつりが間違っていることを注意するときはどうだろう。本書は、そうした言語行動の地域差を全国1000地点規模の調査によって明らかにする。目的別に分類されたさまざまな言語行動のデータを分析することで、この分野の方言学の基盤づくりをしようというのが本書のねらいである。執筆者：井上文子、尾崎喜光、櫛引祐希子、熊谷智子、小林隆、佐藤亜実、椎名涉子、篠崎晃一、竹田晃子、津田智史、中西太郎、松田美香



生活を伝える方言会話【資料編・分析編】 宮城県気仙沼市・名取市方言

東北大学方言研究センター編

B5判・528＋336頁・978-4-89476-984-7 定価 9,600円＋税 発行 2019.10

本書は方言の日常会話を記録し公開した資料編と、それを多角的に分析した分析編からなる。これまで主流だった自由会話に対して、ここでは言語行動の枠組みに基づいて体系的に設定した約150場面の会話を収録し、地域の言語生活を全体的に記録している。会話データ作成の新しい方法論を提案するとともに、資料の特徴を生かした分析をおこなう。執筆者：太田有紀、大橋純一、川崎めぐみ、櫛引祐希子、甲田直美、小林隆、作田将三郎、櫻井真美、佐藤亜実、澤村美幸、椎名涉子、竹田晃子、田附敏尚、玉懸元、津田智史、中西太郎、吉田雅昭

★会話資料CD-ROM付き



方言の研究 5 特集 移りゆく現代方言

日本方言研究会 A5判・384頁・978-4-89476-990-8 定価 5,000円＋税 発行 2019.9

今起きつつある進行中の言語変化をとらえ、未来の方言の姿を考える。今まで報告されていない思いもよらない変化の指摘、若い世代で起こる改新とその言語的要因・社会的動機の解明、言語変化の分析に用いる新しい方法の提示等、新鮮な観点からのアプローチを展開する。執筆者：阿部貴人、岩崎志真子、岡野かおり、籠宮隆之、狩俣繁久、坂井美日、佐藤和之、佐藤高司、佐藤亮一、沢木幹栄、白田理人、杉村孝夫、高木千恵、田中リディア、津田智史、友定賢治、中井幸比古、中川寛之、中根育子、林直樹、松田美香、マリィ・クレア、水野義道、村中淑子、山本友美、横山晶子、米田正人



方言の研究 6

日本方言研究会 A5判・180頁・978-4-8234-1045-1 定価 5,000円＋税 発行 2020.8

投稿論文3本、資料・情報1本を掲載する。また、「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」の連載を開始し(本号は各2本掲載)、最新の方言研究に具体的なかつわかりやすく導くとともに、方言研究を下支えしてきた市民による方言学に光を当てる。執筆者：今村かほる、上野善道、大野眞男、ケナン・セリック、小林隆、佐藤亮一、真田信治、下地理則、杉本妙子、竹田晃子、林由華、日高水穂、半沢康、森勇太



日本語 下手談義

杉本つとむ著 四六判・516頁・978-4-89476-890-1 定価 4,400円＋税 発行 2019.11

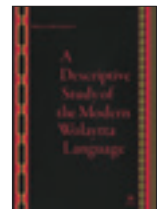
日本近代語の研究者として多くの著作のある杉本つとむ氏の90歳を記念して、ご自身のこれまでに書かれたことばに関わるエッセイを集めたもの。漢字、俗字、辞書と辞書史、長崎通詞、日蓮の言語生活、緒方洪庵と適塾、稲荷山古墳の鉄剣の銘、長谷川伸、川路柳虹、文明開化、女ことば、日本語教育など、テーマは多岐に亘る。杉本氏のことばに関する広い思索の軌跡を知ることができる。



A Descriptive Study of the Modern Wolaytta Language

若狭基道著 菊判・852頁・978-4-8234-1024-6 定価 45,000円＋税 発行 2020.2

エチオピアの南西部で話されているウォライタ語(アフロアジア大語族、オモ系)の総合的で詳細な記述的研究。有声喉頭化音の存在の指摘、表記の実態の分析、「具体性」という概念を用いた普通名詞の形の使い分けの解明、固有名詞の多面的な記述、ヴォイスの複合現象の検討等、オリジナルな視点を含みつつもレファランスマスターとして望ましい姿を模索。世界的に密かな注目を集めていた博士論文、待望の出版。〈日本学術振興会助成刊行物〉



シリーズ ドイツ語が拓く地平 2

ドイツ語と向き合う

井出万秀・川島隆編

A5判・276頁・978-4-89476-998-4 定価 4,000円＋税 発行 2020.8

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第2巻。第1部「異言語に生きる」では、複数の言語のはざままで生きる人々の経験のなかでドイツ語が果たしてきた役割を見る。第2部「ドイツ語の主題と変奏」では、標準語、正書法、文法など制度面の転換点に光をあて、ドイツ語が今の姿になるまでのプロセスを俯瞰する。執筆者：井出万秀、川島隆、黒田亨、佐藤恵、真田治子、大喜祐太、高田博行、多和田葉子、中直一、浜崎桂子、美留町義雄、村瀬天出夫



日本語と世界の言語の名詞修飾表現

プラシャント・パルデシ、堀江薫編

A5判・584頁・978-4-8234-1036-9 定価 8,800円＋税 発行 2020.5

名詞(連体)修飾表現は世界の諸言語の研究において最も研究されてきた言語現象の一つである。本論文集は東から北東・中央・西・東南・南までを含むアジア諸言語、ヨーロッパ言語の名詞修飾表現に関する26本の論文を収録している。対照言語学・類型論的観点から「内の関係」(所謂「関係節」)のみならず、通言語的研究の少ない「外の関係」の名詞修飾表現に関しても分析を広げており、名詞修飾表現に関心を持つ読者にとって必読の文献である。



言語の能格性

今西祐介著 A5判・200頁・978-4-8234-1033-8 定価 3,800円＋税 発行 2020. 3

能格性に関する日本語での初の概説書。能格言語の特異性を示すと同時に、英語や日本語と能格言語の類似性にも注目することで、言語の普遍性研究の重要性を説く。頻繁に議論される能格言語(バスク語やヒンディー語等)と筆者の専門であるマヤ諸語に焦点を当てながら能格性とそれに関連する言語現象を網羅的に紹介する。さらに、生成文法理論における能格性研究を概説しながら、当該理論の成果・問題点・今後の展望を明らかにする。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著 A5判・288頁・978-4-8234-1093-2 定価 1,700円＋税 発行 2021. 3

初版刊行より約10年を経て、最新情報を取り入れ内容を大幅更新。第2版刊行。コーパス言語学(corpuslinguistics)は、英語においては1990年代以降、日本語においては2000年代以降、それぞれ急速な進展を見せ、現在、言語や言語教育に関わる幅広い研究分野に大きな影響を及ぼしている。本書は、英語コーパスと日本語コーパスの両者に目配りしつつ、初学者を対象に、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法論について平易に解き明かすことを目指す。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著 A5判・248頁・978-4-89476-940-3 定価 1,800円＋税 発行 2019. 10

本書は、私たちが持つ言語知識は抽象性や複雑性が異なる様々なタイプの構文のネットワークからなると考える構文文法の考え方を紹介する。言語経験から抽出された構文が私たちの言語活動を支えると考え、言語知識を文法と辞書に大別する伝統的な言語観とは異なる言語の姿がみえてくる。「構文」という概念を理解することで、英文法の知識が深まるとともに、認知言語学、談話・機能言語学、コーパス言語学、定型表現の研究等にも大いに役立つであろう。



ベーシック語彙意味論

岸本秀樹・于一楽著

A5判・144頁・978-4-8234-1044-4 定価 1,700円＋税 発行 2021. 2

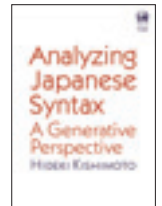
語彙には歴然とした体系的性がある。本書は、語彙のこのような体系的な側面を特に意味的な観点から解説する。語彙の体系は、語の形態・音韻・意味に及び、日常的な表現を中心に具体例を交えながら、これらの体系に関して基本的な事実とそれを説明する規則や原理を紹介する。本書を読み終えると、語彙の意味がどのように研究されてきたかについておおよその方向性をつかむことができ、日常的な語彙の中に潜む日頃気がつかない法則性に迫ることができる。



Analyzing Japanese Syntax A Generative Perspective

岸本秀樹著 菊判・240頁・978-4-89476-988-5 定価 2,600円＋税 発行 2020. 10

意外なほどに身近な英語と日本語の言語現象を通して、普段気がつかないことばの仕組みへ招待し、生成文法の考え方を学ぶ。言語系の学生ばかりではなく、また、人文系にとどまらず、さまざまなジャンルの学生にも、生成文法の考え方や面白さに興味を持ってもらい、文法について考えるきっかけを与えることを意図する新しい教科書。『ベーシック生成文法』(p. 32)を基にした英語版。■ Kindle版も発売中。



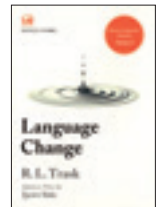
Hituzi's Linguistics Textbook Series 3

Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注釈

菊判・144頁・978-4-89476-999-1 定価 1,700円＋税 発行 2019. 12

現代英語を含む英語の史的変化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



標準韓国語文法論

南基心・高永根・劉賢敬・崔炯龍著 五十嵐孔一監訳 鷺澤仁志・松浦利恵・千代裕介・崔允智・姜詠里・根津祐希訳

A5判・440頁・978-4-8234-1077-2 定価 8,200円＋税 発行 2021.3 

本書は南基心、高永根他著『표준 한국어 문법론(標準韓国語文法論)』(全面改訂版、2019)の全訳である。韓国語の形態論と統辞論を詳細に述べたもので、全面改訂版では最新の言語学、韓国語学研究成果を加筆した内容となっている。韓国の学校文法に準拠した本書は1985年の初版以来、韓国語文法の研究と教育の両分野で文字通り、標準的な文法書として読み継がれている。韓国語学、朝鮮語学のみならず、日本語学に携わる研究者にも必須の一冊である。



韓国語を教えるための韓国語の発音システム

金鐘徳著 中村麻結訳

A5判・216頁・978-4-8234-1073-4 定価 6,800円＋税 発行 2021.1 

本書は、第二言語としての韓国語教育のための発音規則を網羅してその階層を詳らかにした上で、韓国国立国語院標準語規定標準発音法及び標準韓国語大辞典を精査検証し、最適な用例及び例外を提示しつつ、教条的な規範主義ではなく、現実発音を追求する良著である。韓国語を教育する教授者・その教授法を学ぼうとする学生・大学院生・講師志望者必携の書であり、韓国語学習者にとっては発音規則を学ぶための最良の参考書となるだろう。



朝鮮語研究 8

朝鮮語研究会編 A5判・182頁・978-4-8234-1004-8 定価 5,000円＋税 発行 2019.9

本書は1983年4月に発足し、1999年からは正式に学会組織として活動してきた朝鮮語研究会の不定期刊学会誌『朝鮮語研究』の第8号である。本書には、発音の変化に関する論文、指示詞に関する論文、現代朝鮮語文法に関する論文、日朝対照言語学に関する論文、日朝対照文法論に関する論文が収められている。



認知言語学と談話機能言語学の有機的接点

用法基盤モデルに基づく新展開

中山俊秀・大谷直輝編

A5判・408頁・978-4-89476-995-3 定価 4,500円＋税 発行 2020.12 

本書は、言語を実際の言語経験に基づいて形成される動的な知識体系として捉える用法基盤モデルを接点として認知言語学と談話機能言語学の有機的融合を図り、言語知識、言語獲得、言語運用に関する研究の新展開の可能性を示す。第1部と第2部で用法基盤モデルで想定される言語観を概観し、第3部では学際的な視点から行われた9つの研究を実例としてあげる。執筆：岩崎勝一、大谷直輝、大野剛、木本幸憲、佐治伸郎、サドラー美澄、柴崎礼士郎、鈴木亮子、第十早織、巽智子、田村敏広、長屋尚典、中山俊秀、堀内ふみ野、松本善子、吉川正人



実験認知言語学の深化


篠原和子・宇野良子編

A5判・280頁・978-4-8234-1005-5 定価 5,400円＋税 発行 2021.5 

2008年、国際認知言語学会で「量的転回」が宣言された。以来10年以上を経て、日本では実験的手法への興味が広がりつつあるが、欧米と比べるとまだ発展の余地がある。本書ではこれらの概観、解説、事例研究に加え、Gibbs、Slobinなど実験認知言語学発展の歴史に必読な論文の翻訳を掲載し、実験認知言語学のこれまでとこれからを考える。執筆：秋田喜美、Raymond W. Gibbs, Jr. (松中義大訳)、楠見孝、Bonnie McLean、松本曜、鍋島弘治朗、大谷直輝、佐治伸郎、Dan Slobin (櫻井千佳子訳)、菅村玄二、平知宏、宇野良子、吉川正人




言語学と科学革命 認知言語学への展開

山梨正明著 四六判・216頁・978-4-8234-1076-5 定価3,200円＋税 発行2021.5 

本書は、科学哲学の観点から、言語学における新たな言語理論の展開のメカニズムの諸相を明らかにしていく。特に、生成意味論を母体として出現した認知言語学の科学的探求の方法を、科学哲学のパラダイム変換の観点から考察する。また、認知言語学の研究が、言葉の探求だけでなく、修辞学、哲学、認知心理学、脳科学、等の関連分野の研究にどのような重要な知見を提供するかを考察していく。言葉と知のメカニズムの研究への新たな指針となる一冊。



認知言語学論考 No.15

山梨正明編 A5判・324頁・978-4-8234-1029-1 定価9,800円＋税 発行2021.3 

認知言語学の出現の背景と言語研究の新たな展望 山梨正明／身体投射 沖本正／時間の流れに関する認知言語学的考察 吉本一／《指示》の文法を考える 深田智／相互行為における指示の構造と指示表現の選択 平田未季／山本真理／商標言語学 五所万実／特定のインスタンスに成立するメトニミーの理解過程について 伊藤薫／命令・禁止表現から接続表現へ 朱冰・堀江薫／逆接「～ながら」の周辺事例的解釈 梶川克哉



メタファー研究 2 特集：時間のメタファー

鍋島弘治朗・楠見孝・内海彰編

A5判・288頁・978-4-89476-982-3 定価5,000円＋税 発行2019.12

言語学、心理学、工学など、様々な立場からレトリックを研究し、意見交換する場を提供することを目的とした日本語用論学会メタファー研究会の発表を中心としたシリーズ。第2巻では「時間のメタファー」「比喩と隠喩」のテーマを中心に多様な論文を取録。執筆者：宮原勇、一川誠、篠原和子、岩崎真哉、大神雄一郎、本多啓、靱山洋介、笠貫葉子、大田垣仁、岡隆之介・楠見孝、石井康毅、Bipin Indurkha



「させていただく」の語用論 人はなぜ使いたくなるのか

椎名美智著 A5判・304頁・2刷・978-4-8234-1056-7 定価3,600円＋税 発行2021.1 

「させていただく現象」の謎を解く。「させていただく」を言われて怒れる人がいる一方で、「させていただく」の氾濫はとどまるところを知らない。なぜ人は使いたくなり、何が違和感を生むのか？ この問いに答えるべく、意識調査で許容と違和の境界を探り、コーパス調査で発話行為的観点から他の授受表現との勢力関係変化を探った。それらをゴフマン的枠組みから再解釈することで、授受表現に生じているシフトに対する洞察を得た。〈読売新聞／産経新聞書評掲載〉



日本語語用論フォーラム 3

加藤重広・滝浦真人編

A5判・308頁・978-4-89476-994-6 定価5,000円＋税 発行2020.3

日本語研究と語用論研究が通い合う広場(フォーラム)となることを目指して編まれたシリーズの第3巻。いま語用論の研究は、多様な領域と接触しながら、新たな研究テーマと成果が生み出され、熱く活性化されている。本書は、各領域の第一線で活躍する研究者や新進気鋭の研究者による、これからの語用論の研究にとって重要な論考を集めた論文集となっている。執筆者：井本亮、大津友美、荻野千砂子、後藤リサ、滝浦真人、鍋島弘治朗、平田未季、堀内ふみ野、山岡政紀



自然会話分析への語用論的アプローチ BTSJ コーパスを利用して

宇佐美まゆみ編 A5判・396頁・978-4-8234-1039-0 定価4,500円＋税 発行2020.3

「人間の相互作用としてのコミュニケーション」の語用論的分析に適した「基本的な文字化の原則(Basic Transcription System for Japanese: BTSJ)」を活用して自然会話データを分析した「コミュニケーションの本質」に迫る論文集。語用論、談話分析、日本語教育の新境地を開く！執筆者：宇佐美まゆみ、木林理恵、野口美美、平山紫帆、磯野英治、母育新、李宇霞、鈴木卓、萩原孝恵、川口義一



ナラティブ研究の可能性 語りが写し出す社会

秦かおり・村田和代編

A5判・240頁・978-4-8234-1006-2 定価 3,600円＋税 発行 2020. 12 

本書は、多様なアプローチからの研究方法を用いてナラティブ(語り)を考察する実証研究論文9本とイントロダクションから構成される。様々な場所で、様々な人を相手に語られたナラティブを紐解くことで、そこに反映されている現代の価値観や社会規範を批判的に読み解き、それに基づく問題の所在とその解決を導くことをめざしている。執筆者：相田慎、石原凌河、植田栄子、大場美和子、佐藤彰、秦かおり、村田和代、山口征孝、吉田悦子、饒平名尚子

シリーズ 文化と言語使用 2

場とことばの諸相

井出祥子・藤井洋子編

A5判・308頁・978-4-89476-792-8 定価 3,600円＋税 発行 2020. 11 

『コミュニケーションのダイナミズム』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第2巻。既存の語用論理論に新しい語用論の世界を切り拓く一冊。これまでの語用論理論から漏れてしまった非西欧社会の言語実践現象に息吹を与え、日本語のみならず、ハワイの文化・コミュニケーションの理解などに資する世界的視野からの新しい理論の提案書。執筆者：井出祥子、山口征孝、藤井洋子、井出里咲子、多々良直弘、難波彩子、堀江薫・古田朋子、片岡邦好、スコット・サフト

メディアとことば 5 特集：政治とメディア

秦かおり・佐藤彰・岡本能里子編

A5判・280頁・978-4-89476-996-0 定価 4,000円＋税 発行 2020. 11 

近年、世界的に政治は流動期に入っていると言える。その動きを、メディアなくして私たちが把握するのは不可能に近い。今回の特集では、そのような重大な役割を担うメディアが実際にどのように機能しているのかを、政治とメディアの共謀的關係や、政治とメディアの有り様などから紐解く。各章にキーワードのコラム付き。執筆者：五十嵐浩司、遠藤薫、岡本能里子、片岡邦好、金水敏、佐藤彰、辻大介、坪井陸子、秦かおり、劉翔

使える日本語文法ガイドブック やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著

A5判・176頁・978-4-89476-997-7 定価 1,600円＋税 発行 2020. 1

「使える日本語」を教えるために必要な情報を平易な日本語で書いたガイドブック。国際交流基金のJF日本語教育スタンダードのA1からB1レベルの学習者を教える日本語教員が、日本国内外、母語話者かどうかによらず、授業の前に読んで使えるよう配慮。本書は単なる文法書でも、タスク集でもない。「文法は不要」と思っている方にも学習者に場面で必要なことができるようになるためのタスクにおいて、文法がどう埋め込まれているかをやさしく解く。

■ Kindle版も発売中。

場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック

中西久実子編 中西久実子・坂口昌子・中俣尚己・大谷つかさ・寺田友子著

A5判・484頁・978-4-8234-1090-1 定価 3,600円＋税 発行 2021. 4 

日本語教師として知っておくべき知識・技術を網羅した概説書。総ルビなので外国人日本語学習者の読解教材としても使える。文法知識、文法用語、主要な教科書との対応、母語話者の使用実態、誤用例、授業の指導案など専門知識がA1～B1程度の場面とコミュニケーションに結びつけて示されている。国内外の日本語教師の必携書。



アジアに広がる日本語教育ピア・ラーニング

協働実践研究のための持続的発展的拠点の構築

協働実践研究会 池田玲子編

A5判・248頁・978-4-8234-1088-8 定価 3,000円＋税 発行 2021.2 

「ピア・ラーニング(協働学習)」は今や世界的潮流となった。アジア各地では従来の教育の変革が大きな課題となっている。そこで、日本語教育協働実践研究者たちが、アジア地域でピア・ラーニングを理解し実践するための実践研究拠点の構築に取り組んだ。本書は、そのプロセスと成果を報告した本。日本語教育のみならず教育関係者に必読の書。執筆者：池田玲子、舘岡洋子、近藤彩、金孝卿、トンプソン美恵子、朱桂栄、羅曉勤、金志宣、木村かおり、スニーラット・ニンジャローン スック、ナイダン・バヤルマ、アリアンティ・ヴィシアティ、荒井智子、張瑜珊、菅田陽平、駒澤千鶴、房賢嬉、小浦方理恵



ベトナム人に日本語を教えるための発音ふしぎ大百科

金村久美・松田真希子著

A5判・348頁・978-4-89476-919-9 定価 3,200円＋税 発行 2020.8

近年、ベトナム人の日本語学習者が急増しており、彼らの発音指導に困難を感じている指導者が多い。どうしてこのような発音になるのか？ 彼らの母語のベトナム語にはどのような仕組みがあるのか？ どのように指導すれば上手になるのか？ 本書は、ベトナム語母語話者に日本語の発音を教える際の悩みの声に応える1冊である。ベトナム人学習者のさまざまな発音の特徴を解説し、その原因と効果的な指導法を紹介する。★音源はネットで提供。



そのまんまの日本語 自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子・小林美恵子・三枝優子・高橋美奈子・高宮優実・中島悦子・本田明子・谷部弘子著 B5判・140頁・978-4-89476-921-2 定価 2,000円＋税 発行 2020.3

教えるのが恥ずかしくなるような、わざとらしくお行儀のいい会話、普通そんなこと言っていないよと言いたくなる型どおりの話し方、——これらを廃し、従来の発想を大転換して本物の会話だけで作った中級学習者向けの日本語会話教科書。自然の談話の録音資料から選び抜いたナマの会話で、日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。会話文のほか、「自然会話の特徴」「文化ノート」からも、日本語と日本文化を学習できる。

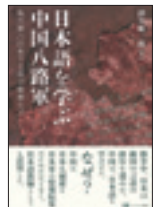
★音声 CD 付。音源はネットでも提供。■ Kindle 版も発売中。



日本語を学ぶ中国八路軍 我が軍ハ日本下士兵ヲ殺害セズ

酒井順一郎著 四六判・180頁・978-4-89476-939-7 定価 2,600円＋税 発行 2020.3

戦争は兵士による武器の戦いだけではない。言語の戦いもある。日中戦争の際、中国八路軍は、日本語を武器として扱った。日本人将兵に対して、投降や降伏さらには協力者を作るために日本語で工作をするためであった。そのために八路軍は将兵に日本語教育を行い、これを駆使し日本人将兵の心に響く説得工作を行った。本書ではこれまで、ほとんど知られていなかった戦場における八路軍敵軍工作の日本語教育について明らかにする。



蚕と戦争と日本語 欧米の日本理解はこうして始まった

小川誉子美著 四六判・424頁・978-4-8234-1031-4 定価 3,400円＋税 発行 2020.2

欧米の日本語学習は対日戦略とともに展開した。そのうち、国防、外交、交易など各国の国益と結びついた8つのトピックを紹介する。幕末の日本産「蚕」や日露戦争後の日本に注がれた関心が日本語の研究を促すなど、動機は意外なところにあった。16世紀から20世紀の西洋人の日本語学習は、綿密な計画とたゆまぬ努力、日本語教師たちの真摯な協力によって成果を生んだ。エピソードを交えながら当時の息吹を紹介する。■ Kindle 版も発売中。〈日本経済新聞書評掲載〉



統計で転ばぬ先の杖


島田めぐみ・野口裕之著

A5判・128頁・978-4-8234-1028-4 定価 1,400円＋税 発行 2021.3 

学術論文においても、統計手法の基本的な誤りを含むものが少なからずある。そこで本書では、統計手法を用いる時に気をつけるべきこと、今まで統計の書籍で取り上げられてこなかった「やってはいけない」ことを、特に日本語教育分野を例にまとめた。グラフ・表からサンプル数の考え方まで、すぐに役立つポイントや注意点を広く取り上げている。ウェブマガジンでの人気連載に、例や項目の大幅な加筆をして書籍化。



テキスト計量の最前線 データ時代の社会知を拓く

左古輝人編 A5判・176頁・978-4-8234-1072-7 定価 2,800円＋税 発行 2021.2 

近年、計読(テキストマイニング、テキストアナリティクス、計量テキスト分析、質的データ分析)は人文・社会科学の多岐にわたる領域で応用が進みつつある。本書は単なるハウツーではなく、具体的な課題に計読の諸技法を本格的に適用した研究成果を集めた。思想史・概念史、学説研究、ジャーナリズム言説の分析、研究者ネットワークの分析など、研究会での議論を通じた切磋琢磨を経て、現代日本の計読研究の規準を提示する。執筆者：河野静香、左古輝人、鈴木努、橋本直人、樋熊亜衣、前田一步



「問う力」を育てる理論と実践 問い・質問・発問の活用の仕方を探る

小山義徳・道田泰司編

A5判・360頁・978-4-8234-1035-2 定価 2,800円＋税 発行 2021.3 

学習指導要領の改訂により、「自ら問いを立て、自律的に考えることのできる人材の育成」が求められている。本書は、学習者の「問い」や、教師の「発問」を基に展開する実践の紹介と背景理論の解説を行い、教育現場で教える教員の方はもちろん、学習者の「問い」や「質問」の研究に携わる大学院生や研究者も深く学べる内容となっている。執筆者：生田淳一、植阪友理、小山義徳、亀岡淳一、鍋木良夫、小山悟、齊藤萌木、篠ヶ谷圭太、白水始、たなかよしこ、中山晃、野崎浩成、深谷達史、道田泰司、八木橋朋子



これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版]

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・978-4-8234-1089-5 定価 2,000円＋税 発行 2021.2 

ライティングが専門でない、高校、大学、大学院の教員が使える、「書き方」と「研究方法」の指導テキスト。2008年に刊行した初版を改訂、時代に合った論文執筆へといざなう。学生の自習用としても充実している。主に人文社会科学系の領域向き。〔文章編〕では「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能を学ぶ。〔論文編〕では文献研究、実証研究の一連の流れを追って、テーマの設定から論文の評価まで段取りを解説。授業で使える練習問題やアクティビティーが豊富。情報満載のダウンロードデータも用意している。■ Kindle 版も発売中。



「書くこと」の授業をつくる

中・高・大で教える『はじめよう、ロジカル・ライティング』

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校国語科+千葉軒士著

A5判・208頁・978-4-8234-1041-3 定価 2,400円＋税 発行 2021.4 

論理的な文章を書くための日本語表現の教科書『はじめよう、ロジカル・ライティング』。この教科書ができるまでの経緯と、「意見文」の書き方を軸に論理的表現の基本を学ぶ本書の趣旨を解説し、授業の実践例を紹介する。中学・高校の国語や総合的な学習の時間、大学の日本語表現法の授業で本書を使った例を取り上げ、その成果と課題を具体的に解説。効果的な授業のための教科書の使い方の手引き。



あらためて、ライティングの高大接続

多様化する新入生、応じる大学教師

春日美穂・近藤裕子・坂尻彰宏・島田康行・根来麻子・堀一成・由井恭子・渡辺哲司著

A5判・184頁・978-4-8234-1082-6 定価 2,200円＋税 発行 2021.1 

もとより高校と大学の間で構造的に切れてしまっているライティング教育をどうつなぐか——を考える『ライティングの高大接続』の続編。今回はもっぱら大学教師の実践的研究にフォーカスし、理念と実践のベスト・バランスを目指す。「書くこと」の経験も能力もますます多様な新入生たちを迎えてなすべきは、結局「学習者のことを知って、教える」ことである。



英語教育における自動採点 現状と課題

石井雄隆・近藤悠介編

A5判・164頁・978-4-8234-1060-4 定価 1,700円＋税 発行 2020.10 

英語学習者の作文や発話を自動で採点することは可能か？ 本書では、学際領域である自動採点研究を自然言語処理、第二言語ライティング、学習者コーパス研究、言語テスト、教室における指導などの観点から論じる。また自動採点研究の知見を通して、人工知能と人間それぞれにとって、できることとできないことを明らかにすることを目的とする。執筆者：石井雄隆、石岡恒憲、金田拓、小島ますみ、小林雄一郎、近藤悠介、永田亮



JACET 応用言語学研究シリーズ 第1巻

英語授業学の最前線

一般社団法人大学英語教育学会(JACET) 浅川和也・田地野彰・小田眞幸編

A5判・170頁・978-4-8234-1040-6 定価 2,000円＋税 発行 2020.11 

1962年の創立以来行ってきた応用言語学研究の理論と実践を形として残すためにスタートしたのが本 JACET 応用言語学研究シリーズである。創刊号の本書は、授業学をテーマに開催された「英語教育セミナー」(2016～2018年度)を総括した内容(基礎編、理論編、応用編、資料編)の4部構成である。授業学の第一線で活躍する研究者達による珠玉の1冊である。執筆者：ジュディス・ハンクス(訳：加藤由崇)、柳瀬陽介、吉田達弘、竹内理、浅川和也、岡田伸夫、村上裕美、佐藤雄大、馬場千秋

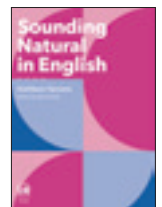


Sounding Natural in English

山根キャサリン著 内田聖二注釈

B5判・116頁・978-4-89476-863-5 定価 1,600円＋税 発行 2020.3

The focus of this volume is on common errors by Japanese speakers of English as identified by a long-term American resident and teacher. Part I deals with Common Lexical Errors, and is subdivided into sections on Nouns, Verbs, Adjectives and Adverbs. Part II focuses on Common Errors in Usage. With the Tokyo Olympics fast approaching, many Japanese have a renewed interest in improving their English language skills. The author hopes that this book will help them on their journey to speaking more natural English. 『Native Speaker にちょっと気になる日本人の英語』の英語版。



ネット時代の中国語

張婧禕・玉岡賀津雄・王莉莎著


B5判・172頁・978-4-8234-1081-9 定価 2,400円＋税 発行 2021.3 

この本は、“你有微信吗？(Wechatを持っていますか。)”などの中国の情報化社会で生活するために必要な表現をふんだんに取り入れた中国語教科書である。発音、語彙、文法、会話、読解など2年間連続して使用できるようにした。中国の社会・文化に関する豆知識、中国を短期間旅行するために必要な会話帳、読解、ドリルもあり、多様なニーズに対応できるよう構成した。

★音源はネットで提供。



中高生のための本の読み方 読書案内・ブックトーク・PISA 型読解


大橋崇行著 四六判・226頁・978-4-8234-1027-7 定価 1,800円＋税 発行 2021.1 

Web マガジン「未草」で連載された「中高生のための本の読み方」が書籍化。中学生、高校生に向けて、本の読みどころや、読むときに有効となる視点などをブックトークの形式で紹介し、読書案内としても使うことができる。また、書き下ろし部分では、さまざまな読書会の進め方や、国語の新学習指導要領とも深く関わる OECD の PISA 型読解力を身につけていく上で、読書をどのように活用していけば良いのかについて解説している。■ Kindle 版も発売中。



明治・大正期国語科の成立と修身科との関わり

文学教材は何を伝えたのか

山本康治著 A5判・312頁・978-4-8234-1075-8 定価 6,200円＋税 発行 2021.2 

明治・大正の教育は、忠君愛国とそれに基づく家族国家観の形成に向けて、修身科を頂点とした教育体系により展開していた。その中で文学教材は、修身科にあつては、「教訓・訓戒」のための題材として、国語教育実践の場においては、それらに抗う、児童主体の「想像」を重視した題材として扱われていった。本書では、当時の国語教育の実相を捉えるとともに、脱文学の方向性を示している現在の国語教育のあり方についても考察する。〈日本学術振興会助成刊行物〉



明治期の幼稚園教育と童話 小学校教育・児童文学との関わりから

北川公美子著 A5判・356頁・978-4-8234-1084-0 定価 7,200円＋税 発行 2021.2 

日本の幼稚園教育の歴史の中で、童話との関係は深く、その初期から「談話・説話」の保育項目の中で取り上げられ、現在でも教材として重要な役割を担っている。本書では、そのような童話が、幼稚園教育の黎明期である明治期において、どのように保育の中へ導入され、受容されてきたかを、小学校教育や児童文学、及び社会状況との関わりを踏まえ、実証的に検証することにより、保育内容としての童話の成立過程の一端を明らかにした。



中国現代文学 22

中国現代文学翻訳会編

A5判・178頁・978-4-8234-1030-7 定価 2,000円＋税 発行 2020.4

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第22号。郝景芳「遠くへ行くんだ」(疾駆する列車に乗った非力な若者の旅と挑戦)、星秀「春の日」に(DV家庭を抜け出す女性の奮闘と葛藤)、葉広苓「盗御馬」(陝北で過ごした知識青年の青春)、蘇童「紅馬(ホンマー)を弔う」(山の民と美しき紅馬の物語)のほか、図書紹介(徐則臣の長編小説『北上』)も掲載する。



中国現代文学 23

中国現代文学翻訳会編

A5判・226頁・978-4-8234-1078-9 定価 2,000円＋税 発行 2021.2 

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第23号。蔣一談「発生」(取り壊される胡同と孤独な老人に訪れた“発生”とは)、普玄「生・一枚の紙切れ」(生まれようとする赤子と老婆が交わす命の秘密)、陳応松「カケスはなぜ鳴くか」(断崖の文字に導かれる一人の農民の運命)、何玉茹「鋤を担ぐ女」(社会にも家庭にも居場所のない農婦の葛藤)などを掲載。



シリーズ 文化研究 4

近代芸能文化史における『壺坂靈験記』

生人形から浄瑠璃、そして歌舞伎・講談・浪花節へ


細田明宏著 A5判・276頁・978-4-8234-1026-0 定価 7,800円＋税 発行 2020.2

『壺坂靈験記』は、明治20年(1887)に浄瑠璃として初演されたのちに歌舞伎や講談、浪花節でも上演されて人気を博した。妻の献身と観音の靈験により盲目の男が開眼するというストーリーや、お里・沢市という登場人物は広く人々に親しまれている。本書は、近代芸能史上にユニークな位置を占めるこの作品について、宗教的物語が芸能化してさまざまなジャンルに展開する過程をたどり、時代背景からその特質を明らかにする。〈日本学術振興会助成刊行物〉



ゼロからはじめる哲学対話 哲学プラクティス・ハンドブック

河野哲也編 得居千照・永井玲衣編集協力

四六判・376頁・2刷・978-4-8234-1032-1 定価2,200円＋税 発行2020.10 

哲学カフェ、子どもの哲学、企業内哲学対話をやってみたい人のための必携ハンドブック。経験豊かな実践者が執筆を担当。人の集め方、場所の決め方、問いの出し方、対話の進め方、使える道具、困った時の対応の仕方など具体的な解決案が満載。対話に必要な哲学史と哲学説の知識も一通り学べる。誰もが使える対話と思考のためのガイドブック。



シリーズ 話し合い学をつくる3

これからの話し合いを考えよう

村田和代編 A5判・272頁・978-4-8234-1002-4 定価3,200円＋税 発行2020.12 

「シリーズ 話し合い学をつくる」待望の第三巻。話し合いは合意形成のツールとして考えられがちだが、目的はそれだけなのだろうか。多領域からの研究・実践報告や議論を通して、あらためて話し合いの機能や可能性を考える。そして、人口減少や超高齢化社会を迎えるこれからの日本社会にとって、話し合いがどのように貢献ができるのかについても問い直す。執筆者：佐藤徹、田中富雄、岡本能里子、服部圭子、中川雅道、杉岡秀紀、宗田勝也、佐野亘、森本郁代、香取一昭、野村恭彦、中村香苗、村田和代



民主的シティズンシップの育て方

名嶋義直編 A5判・276頁・978-4-89476-937-3 定価3,000円＋税 発行2019.10

本書は「民主的シティズンシップ」を広めよう育てようと意図して編まれた。まずドイツにおける民主的シティズンシップ教育の歴史と理念を確認し現地の学校の授業について報告する。続けて日本語教育における実践とドイツ語教育における実践の報告を行う。最後は語学教育や教育機関を超えたアジアにおける若者の国際共修実践を報告する。本書は、理念と実践、言語教育と国際共修、ドイツ欧州・日本・アジアといった「異なるもの」が境界を超えて融合したハイブリッドな「複数性」を重視した書籍である。執筆者：中川慎二、名嶋義直、野呂香代子、三輪聖、室田元美



新刊情報は

こちらからご覧いただけます。



ひつじ書房ウェブサイト
新刊紹介ページ

<https://www.hituzi.co.jp/books/sinkan.html>

これから刊行する書籍のご案内

ひつじ研究叢書(言語編)

第94巻 日本語情態修飾関係の研究

矢澤真人著 A5判・978-4-89476-544-3

日本語の情態副詞に関する研究。3部からなる。第1部は副詞研究史。明治期から現代まで、副詞や連用修飾関係の研究が何を目的としてどのように行われたかを概観する。第2部は情態修飾関係分類論。語順、修飾の奥行き、アスペクト的意味への制限と言った基準から、情態修飾関係の機能的な分類を試みる。第3部は日本語語順論。格成分と修飾成分の相互語順の検討を通して、文の階層的構造を明らかにする。

第114巻 複合辞研究

その成り立ちと広がり

松木正恵著 A5判・978-4-89476-661-7

日本語の複合辞に関する総合的研究。5部からなる。第1部は複合辞研究史で、複合辞と隣接した後置詞・形式副詞等も射程に入れながら概観する。第2部は複合辞と引用表現との関わり、第3部は複合辞と文法化との関わり、第4部は複合辞と連体修飾・連用修飾との関わり、といった各側面からの考察で、個別表現を取り上げ記述する。第5部は複合辞認定論で、複合辞とは何か、どのように認定すべきかという根本的な難問について試論を提示する。

第173巻 語法と理論との接続をめざして

英語の通時的・共時的広がりから考える17の論考

金澤俊吾・柳朋宏・大谷直輝編

A5判・978-4-8234-1020-8

本書は、英語における様々な言語現象に対して、共時的・通時的な側面から、正確に記述し、理論的な説明を行った論考を17編収録した論文集である。どの論考においても、語・句・構文・談話レベルにわたる様々な語法に対して、記述的にも理論的にもバランスのとれた分析を行うことで、英語における語法研究と理論研究の懸け橋となる1冊である。執筆者：家入葉子、石崎保明、植田正暢、内田充美、大谷直輝、樗木勇作、金澤俊吾、岸浩介、木山直毅、久米祐介、柴田かよ子、中村文紀、縄田裕幸、平沢慎也、廣田友晴、藤川勝也、松山哲也、柳朋宏

第174巻 推論と証拠性

認知構造の日中対照研究

呉蘭著 A5判・978-4-8234-1038-3

日中証拠性表現を一般言語学的に位置づけ、認知意味論の観点から、各表現の共通点と相違点を明確に詳述する。また証拠性表現の各用法の関連性も統一的・包括的に説明し、さらに隣接する認識モダリティ表現との相違や共起制限も通言語的な理由で説明する。そして、認知類型論の観点から、推論過程全体を表示する傾向がある日本語タイプと、推論結果の焦点のみを表すことが多い中国語タイプに分類し、これを他の言語にも適用できると予測する。

第176巻 中国語の役割語研究

河崎みゆき著 A5判・978-4-8234-1055-0

中国語にも役割語が存在するのか、するならどのような生態で、中国語の特質とどう関係するのか、翻訳や外国語教育、言語学に貢献しうるかを以下の面から調査研究した。1. 中国語の方言と人物像、2. 中国伝統の「役割語」、3. 非言語行動と人物像、4. 非言語成語と人物像、5. 命名と人物像、6. ネット上のキャラ現象、7. 「役割語」のリソースとしての小学校語文教科書。2017年に北京・商務印書館より発行した本の日本語版。

第182巻 感動詞研究の展開

友定賢治編 A5判・978-4-8234-1065-9

『感動詞の言語学』(ひつじ書房2015)に次ぐ2冊目の感動詞論文集。感動詞化のメカニズムの対照研究、「おっと」「えーと」など「と」系感動詞の意味・用法、役割語における感動詞、日本語学習者の応答表現、など感動詞研究の広がりや深化を示す論文で構成されている。感動詞の魅力と研究の可能性が感じられる一冊。執筆者：井上優、金田純平、金水敏、小林隆、定延利之、富樫純一、友定賢治、中西太郎・林青樺、仁科陽江、野田尚史、森山卓郎、楊虹、羅希、劉伝雲・有元光彦

第183巻 日韓コピュラとコピュラ文の対照研究(仮)

金智賢著 A5判・978-4-8234-1066-6

本書は、現代日本語と韓国語の多様なコピュラ文の対照分析を通じ、両言語のコピュラ構造並びにコピュラ形式「だ」「ita」の特徴を明らかにしようとするものである。基本型コピュラ文の意味論的分析をはじめ、一項名詞文、ウナギ文、動作性名詞述語文、拡張型コピュラ文、分裂文、さらに、コピュラ及び属格助詞に関わる名詞修飾構造等を対照的に取り上げることで、日韓のコピュラやコピュラ文の根本的かつ総合的な理解に迫る。

第185巻 英語の補部の関係節の統語論・意味論と先行詞の問題

渡辺良彦著 A5判・978-4-8234-1102-1

述詞関係節や副詞句を空所とするある種の関係節が、関係節の形をしていながら修飾部とは異なる「補部」という意味機能を果たすのはなぜであろうか? 本書は、可能な補部関係節を限定するため関係節化を個体対象のものとして述語対象のそれとの2つに分け、後者が補部関係節を特徴づけるとする考えを生成文法の枠組みで論じた最初の試みである。本書では、命題関数でなく「命題」として解釈される関係節の存在が漸次に提案される。

3 語用論

林宅男編 A5判・978-4-89476-669-3

幅広い語用論研究の分野を広くカバーし、現代の語用論研究を見通せることができる一冊。執筆者：高見健一、井出祥子、加藤重広、金水敏、龍城正明、泉子・K・メイナード、松本善子、林礼子、小野寺典子、益岡隆志、西山佑司、澤田治美、山口治彦、野田尚史、庵功雄、牧野成一、岩崎勝一、内田聖二

言語学翻訳叢書

21 言えそうなのに言わない

構文の創造性と競合性

アデル・E・ゴールドバーグ著 木原恵美子・異智子・濱野寛子訳 A5判・978-4-8234-1079-6

絶えず変化するコンテキストの中で私たちは構文を創造的に使用する。しかしその一方で「言えそうなのに言わない」表現が存在する。たとえば explain me this は言えそうなのに英語母語話者は言わない。創造的でありながら制約が多い言語を子どもや大人はどのように学習するのか。本書はさまざまな構文の実例や実験研究をわかりやすく解説しながら、この問いを探ってゆく。構文文法を初めて学ぶ読者にも薦められる一冊。原著：Adele E. Goldberg (著) *Explain Me This: Creativity, Competition, and the Partial Productivity of Constructions*.

22 これからの言語学(仮)

ダイナミックな視点から言語の本質に迫る統語論

ジム・ミラー著 岸本秀樹監訳 吉田悦子・久屋孝夫・三浦香織・久屋愛実訳 A5判・978-4-8234-1091-1

言語には異なるモード(話しことば、書きことば)や変種(地域的、社会的)が存在する。本書は、統語分析の対象から外されることが多い標準から逸脱した変種であっても、信頼できるデータを十分に観察すれば、言語現象を適切に分析できることを解き明かす。多彩な実例から言語の本質に迫ろうとするアプローチは、記述文法のみならず、形式文法においても十二分に価値を持つ。丁寧な訳注とコラムも付いて、新たな文法研究に挑む醍醐味を実感できる一冊。原著：Jim Miller (著) *A Critical Introduction to Syntax*.

シリーズ言語学と言語教育

44 移住労働者の日本語習得は進むのか

茨城県大洗町のインドネシア人コミュニティにおける調査から吹原豊著 A5判・978-4-8234-1096-3

日本語学習リソースへのアクセスが制限されている移住労働者の日本語習得過程はどのようなものか。本書は10年余におよぶフィールドワークと100名を超えるOPIによるデータをもとに、第二言語環境における移住労働者の日本語習得の過程を、日本の地域社会に存在する複数のコミュニティへ参加していく中での状況的学習としてとらえ、分析を行った研究の成果である。第二言語習得研究者はもとより広く在日外国人問題に関心のある読者に是非ご一読いただきたい。

3 接辞からみた英語(仮)

西川盛雄著 四六判・978-4-89476-932-8

英語を学ぶに際し、語の仕組みについて知ることはとても重要。語の仕組みや意味や語源を知ることはこれを使う技能のレベルアップにつながる。語形成の重要な要素は接辞。接辞が分かれば英語が身近で面白く、魅力的に見えてくる。本書は英語の接辞付与による語形成について分かりやすく具体的に説明した。本書を読めばさまざまな発見があるはず。本書によって英語の語形成の面白さが分かり、語彙が増え、英語力が高まることが期待できる。

4 カタカナ語からはじめる英語の発音(仮)

中西のりこ著 四六判・978-4-89476-991-5

日本語母語話者が英語発音を学ぶ際、カタカナ外来語の発音との混同が起こりやすい。しかし日本語発音と英語発音のしくみの違いを体系的に理解できれば、発音を学ぶことは難しくない。本書では、日常語として馴染みのあるカタカナ語を例に、敬遠されがちな発音記号を分かりやすく説明する。さらに音声変化やプロソディのしくみについても解説し、発音練習におすすめの学習法を紹介する。身近にあるカタカナ語の知識を活かして、発音の苦手意識を克服してほしい。

ひつじ研究叢書(文学編)

13 文学と戦争

言説分析から考える昭和一〇年代の文学場

松本和也著 A5判・978-4-8234-1103-8

本書は、アジア・太平洋戦争期と重なる昭和10年代文学(史)に関する研究プロジェクトとして、多彩な文学活動を歴史的なアプローチによって多角的に検証した成果の集大成である。昭和10年代を通じて多くの文学者が関わった論争的なテーマの数々、話題となった文学作品の特徴や同時代受容、戦時下における文学者の生き方などをとりあげ、問題構成に応じてアレンジしたメディア調査、言説分析、テキスト読解をクロスさせた考察を集積した。

14 横光利一と台湾

東アジアにおける新感覚派(モダニズム)の誕生

謝恵貞著 A5判・978-4-8234-1109-0

日本統治期台湾の文学において、横光利一の「純粋小説論」や作品が与えた影響は大きく、また、その影響は中国や韓国など東アジアに広がる。本書は、日本統治期において台湾人作家がいかに横光を受容したかを解明し、台湾文学史の中にこれまで看過されてきた「台湾新感覚派」の誕生を文学史に正しく位置づける。更に、韓国の李箱や中国に渡った劉訥鵬の横光受容や、新発見された横光の随筆「台湾の記憶」を通して台湾の表象を論じる。

シリーズ フィールドインタラクション分析(高梨克也監修)

2 鮎屋で握りを注文する(仮)

平本毅編 A5判・978-4-89476-732-4

この巻では、江戸前鮎屋にフィールドを求め、親方をはじめ

とする店員と客とのインタラクションを分析する。和食のユネスコ無形文化遺産登録もあって、日本の食文化が世界的に注目を集めているが、日本の食文化の少なくとも一部は、外食サービスの現場で形成されるものはずである。鮭屋の注文場面の分析を通じて、独特なインタラクションの形式が、そうした文化をどう生み出していつているかを論じる。執筆者：黒嶋智美、平本毅、山内裕

5 「三夜講」で祭りを準備する (仮)

野沢温泉道祖神祭りの伝承を支える仕組み
榎本美香編 A5判・978-4-89476-735-5

この巻では、北信濃野沢温泉の道祖神祭りの準備を担う「三夜講」と呼ばれる3世代100名程度の集団の協働インタラクションを分析する。言葉では表現しきれない身体技法や作法とともに、目上の者への礼儀を重んじ、公の前に自己犠牲を厭わず、誠意のある仕事をするという伝統的精神が伝承される様子を著す。執筆者：阿部廣二、榎本美香、坂井田留衣、高梨克也、寺岡丈博、伝康晴、坊農真弓、細馬宏通

ポストコロナル時代の人文学と東アジア文化圏

2 新世紀の文学研究 (仮)

ナショナリズム・一国主義・伝統を超えるために
千野拓政・鳥羽耕史編 A5判・978-4-89476-979-3

グローバル化とともに激変する世界の中で、難しい位置に立つ文学。もはや日本、中国といった単体で考える意味は薄れている。創作の現場で作家はどのような問題に直面し、研究者はそれをどう捉えることができるのか。日本と中国の最前端で活躍する作家・研究者が文学の現状と未来を語り尽くす。執筆者：酒井直樹、古川日出男、閻連科、王曉明ほか

3 人文学の明日を見つめて

世界はどこへ向かうのか？
千野拓政・草原真知子編 A5判・978-4-89476-980-9

文系・理系の垣根を越えて広がる人文学。今、その最先端で何が起きているのか。それは多様化する世界の姿を捉えられるのか。俊英が新たな地平を切り開く。あわせてアジアで人気を博しながら欧米では反響のなかったアニメ『君の名は。』を世界の視点から語る。執筆者：エルキ・フータモ、東浩紀、ドミニク・チェン、ミツヨ・ワダ・マルシアーノほか

「ぬらりひょん」な日本語文法を目指して

「コミュニケーション」と「文法」を捉え直す
小林ミナ・船橋瑞貴編 A5判・978-4-8234-1034-5

「文法」とは、唯一絶対の固定的なシステムではなく、個別具体の状況に寄り添いながら「言語」と「言語でないもの」が複雑に絡み合って存在する実態である。浮き世の有様を丹念に観察するとどのような「文法」が描き出せるのか。変幻自在な掴みどころのない妖怪とされる「ぬらりひょん」の名を付し、新しい「文法」のあり方を示す画期的な1冊。執筆者：太田亨、金田純平、衣川隆生、クレアマリィ、小林ミナ、定延利之、滝浦真人、船橋瑞貴

コーパスによる日本語史研究 近代編

田中牧郎・橋本行洋・小木曾智信編
A5判・978-4-8234-1097-0

日本語史研究は、資料の読解とそこから取り出した言語形式の集計と分析を重ねる方法によって、発展してきた。近年整備が進む歴史コーパスは、この方法を質的に深化させ量的に拡大することで、新たな地平を開きつつある。近代に焦点をあて、〈展望〉2編、〈論文〉11編、『日本語歴史コーパス』の〈解説〉4編を掲載し、読者を新地平に誘う。執筆者：田中牧郎、橋本行洋、矢島正浩、宮内佐夜香、小島聡子、近藤明日子、高橋雄太、間瀬洋子、横山詔一、竹村明日香、新野直哉、小木曾智信、服部紀子

話し言葉の多様性 (仮)

山崎誠・柏野和佳子編 A5判・978-4-8234-1086-4

話し言葉のコーパスが充実するにつれ、話者の属性、会話の場面や目的などにより、話し言葉が多様な姿を見せることが分かってきた。本書は、国立国語研究所の「日本語日常会話コーパス(CEJC)」のプロジェクトで開催したシンポジウムでの発表をもとに、音韻、語彙、文法、文体の諸側面から話し言葉の多様性を明らかにしようとするものである。執筆者：山崎誠、小磯花絵、石井久美子、入江さやか、河野礼実、高崎みどり、村井源、柏野和佳子、丸山直子、金青華、茂木俊伸、飯間浩明

アジア・太平洋における日本語の過去と現在

今村圭介、ダニエル・ロング編
A5判・978-4-8234-1098-7 定価7,200円＋税

本書は、戦前日本の帝国主義による領土拡大の影響からアジア・太平洋に広がった日本語の過去と現在を記述するものである。長年各地で調査研究を進めてきた著者陣による3部構成の論考であり、「残存した日本語」「接触言語」「日本語からの借用」の3つの側面を記述している。近年研究が進んだ同分野の研究の全体像を明らかにする1冊である。執筆者：今村圭介、ダニエル・ロング、朝日祥之、甲斐ますみ、黄永熙、甲賀真広、合津美穂、真田信治、高木丈也、張守祥、白曉明、李舜炯〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

方言の研究 7

日本方言研究会
A5判・978-4-8234-1095-6 定価5,000円＋税

投稿論文1本、資料・情報1本、また、「解説」として「方言研究の方法」と「方言学を支えた人々」(各2本)を掲載する。最新の研究成果に加えて、コロナ禍における研究実践・研究支援活動の報告や方言研究の指針を具体的かつわかりやすく示すとともに、長く方言研究を下支えしてきた市民による方言学を紹介する。執筆者：井上文子、加藤和夫、岸江信介、久保博雅、小西いづみ、田中ゆかり、二階堂整、西尾純二、灰谷謙二、半沢康

Linguistic Atlas of Asia

遠藤光暁・峰岸真琴・白井聡子・鈴木博之・倉部慶太編
B5判・978-4-8234-1074-1 定価 28,000円＋税

アジア全域の全語族につき2000地点ほどの密度で「太陽・稲・乳・風・鉄・計数法(類別詞)・声調とアクセント・雨が降る」の8項目に対して言語地図を描画し、それぞれの語形の形成過程に関する解釈を集成した。24名からなる各語族の専門家によるコラボレーションの成果である。項目ごとにアジア全域における概観が与えられ、マクロ・ミクロな地理分布をパノラマのように一望することができる。(日本学術振興会助成予定刊行物)

自由研究 ようこそ!ことばの実験室(コトラボ)へ

松浦年男著 A5判・978-4-8234-1108-3

ことばの仕組みや特徴の調べ方を小学生に向けて解説。自由研究のガイドとしても、調べ学習の参考資料としても使える。内容は、3つのワーク——①考える(「隠れた「っ」を探せ!」「は」と「が」はどう並んでる?」、②作る(「漢字だけ文を書いてみよう」、③調べる(「世界のことばで「日本」は何と呼ぶのか?」「手話のことを調べよう」)で、ことばの楽しみ方がいろいろな角度から分かるよう工夫されている。

5分間で言語学 一口サイズのことばへの誘い

リッカーソン・ヒルトン編

上田功、大津智彦、加藤正治、早瀬尚子監訳
A5判・978-4-89476-840-6

ことばは、空気のように我々の周りに当たり前存在し、かつ不可思議で複雑である。本書では、一流の言語研究者が平易な語り口で、未知なることばの世界へと読者を誘う。60からなる各章は短い。言語の起源、動物の言語、世界の書き言葉、手話言語、言語の変化等、様々な角度からことばに迫る。時間の許すときに手に取り、読み始めてみよう。翻訳者：上田功、大津智彦、加藤正治、金子理紗、奥藤里香、田中瑠子、高森理絵、中尾朋子、早瀬尚子、渡邊拓人

異分野融合研究のためのテキストマイニング

内田諭・大賀哲・中藤哲也編
A5判・978-4-8234-1000-0

本書は異分野融合研究を実践するための方法論としてテキストマイニング(TM)に着目し、その基本的な仕組みや実際の研究事例を示したものである。基礎編ではTMの理論や手法等を紹介し、実践編では言語学、情報学、政治学、社会学、看護学、環境学など多様な分野の新進気鋭の研究者が、それぞれの分野におけるTMの実践的な研究例を提示する。執筆者：石田栄美、伊豆倉理江子、内田諭、大賀哲、加藤朋江、金岡麻希、川端亮、木下由美子、清野聡子、田中省作、土屋智行、中藤哲也、永崎研宣、秦正樹、畑島英史

ソシュールのアナグラム予想

その正しさが立証されるまで

山中桂一著 A5判・978-4-8234-1092-5

古典語の詩には、表現に並行して神格や作者名、テーマなどの音像を形成するような未知の詩法が存在したのではないかと

——この直感こそソシュールを夢中にさせたが、結局その確証を得るに至らず、また後世の研究者たちも目ぼしい成果を挙げられないで来た。しかし最近ようやくアナグラムの存在とその仕組みに関する有望な学説が登場した。本書ではそこに至る紆余曲折を略述し、最終解とらしいこの新説を紹介する。

シリーズ ドイツ語が拓く地平 3

ノモスとしての言語

大宮勘一郎・田中慎編 A5判・978-4-8234-1106-9

ドイツ語という言語を切り口に、社会、歴史、文化の問題を論じるシリーズ第3巻。第1部「近代ドイツにおける「国語」では、言語の規範(ノモス)の形成と変容の社会的、物質的条件についてドイツ語を例に歴史的観点から考察する。第2部「現代におけるノモスの揺らぎ」では、現代の言語規範のありかたについて地理的、社会的、文体的な観点から検討する。執筆者：井出万秀、遠藤浩介、大宮勘一郎、小川敦、川島隆、清野智昭、杉田優子、高田博行、高橋秀彰、武田利勝、田中慎、宮田真治

シリーズ 文化と言語使用 3

場と言語・コミュニケーション(仮)

井出祥子・藤井洋子監修 岡智之・井出祥子・大塚正之・櫻井千佳子編 A5判・978-4-89476-793-5

『場とことばの諸相』に続く、「シリーズ 文化と言語使用」の第3巻。近代哲学・科学のパラダイムを乗り越え、場の理論に基づく「主客非分離」「場における相互作用」のパラダイム転換を打ち出した渾身の一冊。人称詞、指示詞、絵本の日英対照、複合動詞、身体論など、豊富な事例研究を展開し、新たな言語研究の地平を切り開く。執筆者：大塚正之、井出祥子、岡智之、植野貴志子、新村朋美、成岡恵子、小森由香、小柳昇、河野秀樹

日本における言語社会化ハンドブック

クック治子・高田明編 A5判・978-4-8234-1049-9

人類学、言語学、心理学、社会学などが交差する領域で近年発展し、注目されている「言語社会化」アプローチの古典と最新の研究をまとめて紹介する本邦初の書籍。言語社会化の研究は、文化的新参者が「文化の文脈」と関連させつつ「状況の文脈」をどのようにとらえるのか、またそうしたとらえ方を文化的熟練者がどのように示唆するのかを明らかにする。これにより、「言語を使うための社会化」と「言語を使うことを通した社会化」を結びつけながら追究する。

データ科学×日本語教育

李在鎬編 A5判・978-4-8234-1099-4

コーパスや統計、計量分析のような、データ科学に基づく実証研究の方法論と研究例によって、新しい日本語教育学の方向性を提示する。方法論編ではデータ科学の全体像を示した上で、データ構築の方法や分析手法を紹介。研究事例編では音声学、文字学、語彙論、文法論、文章談話論、文体論、日本語教育史の観点から最先端の研究例を紹介。執筆者：阿辺川武、岩崎拓也、大崎健一、小野塚若菜、木下直子、鯨井綾希、滝島雅子、田中祐輔、玉岡賀津雄、仁科喜久子、早川杏子、ホドシチェック・ボル、本多由美子、三谷彩華、村田裕美子、八木豊、李在鎬

質的言語教育研究を考えよう (仮)

リフレクシブに他者と自己を理解するために
八木真奈美・中山亜紀子・中井好男編
A5判・196頁・978-4-8234-1042-0 定価 2,200円＋税

言語教育の分野でも広がる「質的研究」。興味があるけど、どうやるの？ インタビューをすれば質的研究？ 結果は一般化しないの？ 様々な疑問に、言語教育の実践者である執筆者が、それぞれの研究とその裏側を明かし、新たな概念の提唱を試みた渾身の書。初心者も経験者も質的研究の真髄を知りたいなら、この1冊。執筆者：八木真奈美、中山亜紀子、中井好男、李曉博、脇坂真彩子、歐麗賢、大河内瞳、サマンティカ・ロクガマゲ、嶋本圭子、瀬尾悠希子

言語教育とコメニウス

松岡弘著 A5判・978-4-8234-1100-7

現代の外国語教育の内容と方法、その基本理念は、実に四世紀も前に一人のチェコ人牧師かつ学校教師によって確立した。その人ヤン・アモス・コメニウスは教授学者・思想家として名高いが、本務は国内外の学校におけるラテン語教育であった。筆者は彼の著した言語教科書、その指導書・理論書を原典に則して読み解き、さらにコメニウスが近現代の中央ヨーロッパの言語教育界にもたらしたものを、日本語教師の目を通して明らかにする。

デュルケーム世俗道徳論の中のユダヤ教

ユダヤの伝統とライシテの狭間で
平田文子著
A5判・978-4-8234-1101-4 定価 7,000円＋税

デュルケームは、ラビの継承者でありながらユダヤ教信仰を棄ててフランスの世俗道徳論者になった。この通説に対して、ユダヤ教に根拠を置いて彼の道徳的連帯論を検討することが本書の目的である。近代以降キリスト教に対抗して進展してきた民主主義は、その基盤に世俗主義を掲げてきた。彼の世俗道徳論をユダヤ教の法概念に照らして解釈することは、「キリスト教から世俗主義へ」という近代西洋思想の展開に新たな視点を与える。〈日本学術振興会助成予定刊行物〉

ゼロからはじめる数理的言語研究入門 (仮)

近藤泰弘・小木曾智信・小磯花絵著
A5判・978-4-8234-1001-7

これからの言語学は、数理的な発想やそれを実現する工学的分析プログラムやツールを研究に使うことが重要になると思われる。しかしながら、日本の大学のこれまでの言語研究者を育成するプログラムには、これらを教える仕組みが十分には整っていなかった。関心を持って、初学者にはなかなか手が出しにくい状況が続いている。これからの言語学を担う若手の言語研究者たちに数理的な言語研究の方法をデモンストレーションするワークショップを開催した。その内容の書籍化。

新版 社会言語学図集

日本語・英語・中国語・韓国語解説
真田信治、ダニエル・ロング、朝日祥之、簡月真、李舜炯編
A5判・978-4-89476-942-7

社会言語学の各領域におけるトピックを集成し、それぞれの裏付けとなったデータを図表の形にして掲げ、日本語と英語・中国語・韓国語で簡潔な解説を加えた。近年、大学等での授業科目として「社会言語学」が取り上げられることが多くなった。本図集は、そのための教材として新たに編修したものである。日本語をもとにして、英語、中国語(繁体字)、韓国語による要約も掲げているので、対照しつつ外国語学習としても活用できよう。

新科目「公共」について考える

ひつじ書房編集部編
A5判・978-4-89476-913-7

高校の社会科の新しい科目として「公共」が2022年から誕生することになった。もし、国語科の意味が、国民が市民として、議論し、政治的な市民性を発揮することにもあるのなら、哲学と言語の連携は重要であるはずである。社会学・国語科教育・哲学・言語学・コミュニケーションほか、関与するテーマの研究者による議論の書。執筆者：五十嵐沙千子、唐木清志、定延利之、佐野亘、深瀬幸一、村田和代、森本郁代 ほか

ポートランド州立大学のコミュニティ・ベースド・ラーニングに学ぶ

大学の新しい役割
白石克孝・西芝雅美・村田和代編
A5判・978-4-8234-1003-1

大学に求められる新たな役割とは。本書は、ポートランド州立大学で展開している地域連携型教育プログラムを多角的な視点から紹介し、地域変革のアンカーとしての大学のモデルを提示する。国内の先進事例として京都の産学官民連携で展開してきた地域公共人材育成にもふれながら、これからの大学の新しい役割について考える。日英2言語併記。執筆者：ケヴィン・ケスカス、西芝雅美、ステイーブン・パーシー、ジュディス・ラメイリー、サイ・アドラー、エイミー・スプリング、セリーヌ・フィッツモリス、向野也代、ジェニファー・アルカズウィーニー、飯迫八千代、クリスティーン・クレス、レイチェル・サミュエルソン、シェリル・ゲルモン、白石克孝

目指せ！ 書ける大学生

今さら聞けないレポート・論文、メールの書き方
澤村美幸・朴秀娟・新井由美著
B5判・978-4-89476-941-0

レポート・論文などの学術的文章から、電子メールといった実用的文章の書き方まで、大学生活を送る中で、「書くこと」に困った状況に幅広く対応。「レポートって何を書けばいいの？」「こんな時、先生にどんなメールを送ればいいの？」と、多くの大学生がつまづいてしまうレポートやメールの初歩的問題を、親しみやすいマンガで分かりやすく紹介しながら解説する。大学生活に必要な「書く力」の基礎を身につけ

られる一冊。

明日の授業に活かす「意味順」英語指導

理論的背景と授業実践

田地野彰編 A5判・978-4-8234-1087-1

教育文法の最新理論「意味順」を活用した英語指導法の決定版、ついに登場。「意味順」を軸に英語指導の体系化をめざす。その理論的背景を、教育言語学、理論言語学、英語史、英詩研究の観点から検証するとともに、豊かな指導経験に基づいた授業への導入例を紹介する。中高から大学までの英語授業の未来を切り開く教師や研究者にとって必読の書。執筆者：田地野彰、金丸敏幸、川原功司、高橋佑宜、笹尾洋介、奥住桂、藤木克哉、山田浩、佐々木啓成、村上裕美、加藤由崇、渡寛法、桂山康司

英語科学論文をどう書くか

新しいスタンダード

保田幸子著 B5判・978-4-8234-1080-2

国際的な発信力を高めたい大学・大学院生、研究者を対象とした英語科学論文執筆のためのガイドブック。トップジャーナルに掲載された最新の論文の分析に基づき、科学論文に関する様々な伝統的通説を反証し、21世紀型の新しい科学論文執筆法を解説する。読み手を効果的に導くための論文の構成、強調や緩衝などの微妙なニュアンスを伝えるための表現をサンプルの分析を通して段階的に学んでいく。読み手を引き付ける論文のコツを網羅的に学べる一冊。

英語学習 7つの誤解(新版)(仮)

大津由紀雄著 A5判・978-4-89476-780-5

「英語学習は早く始めるほどよい」、「留学すれば英語は確実に身につく」、「英語学習は母語を身につけると同じやり方で進めるのが効果的である」など、英語学習に関してよく耳にする7項目を取り上げて、それがじつは誤解であることをわかりやすく解説する。そのうえで、英語学習ではどんな方法が効果的なのかを探る。英語使いの達人たちがどうやって英語を身につけたかについてのアンケート調査の結果も取られている。

文字と国語と文学と(仮)

「国語」と「文学」を架橋するための「文学理論」入門

疋田雅昭著 A5判・978-4-8234-1104-5

高校生の現代文が、文学的文章と論理的文章に「分離」されることとなった。この政策が単なる「分離」ではなく「隔離」であることは明らかだが、我々はこの「分離」を逆手にとって、新たな国語教育の可能性を模索してゆかねばならない。文学理論と文学教育をどう切り結ぶのか。そして、文学的文章と論理的文章の教育を有機的に組み合わせるには、何が必要なのか。専門的知から様々な領域に「接続」するための紐帯を提供する、新しい文学理論入門。

中国現代文学 24

中国現代文学翻訳会編 A5判・978-4-8234-1107-6

現代中国の文学作品を翻訳・紹介する『中国現代文学』の第24号。双雪濤「平原のモーセ」(連続強盗殺人事件と二人の幼

なじみは、どうつながっていくのか?)、史鉄生の晩年の詩三編(「今晩は夜明けまで起きていよう」「トニーヤとニーチェ」「グリゴラー)、王蒙「灰色の鳩」(80年代初めの中国、農村から都会へ出稼ぎにやってきた若者の夢と現実)、本の紹介などを掲載予定。

中国現代文学案内(仮)

栗山千香子・上原かおり編 A5判・978-4-89476-960-1

今、中国や台湾にはどんな作家がいて、どんな作品を書いているの?日本語で読みたいけれど、翻訳はあるの?—中国や台湾に関する本はたくさん出版されているが、こんな疑問に答えてくれる本が実はない。本書は、中国および台湾、香港、東南アジア等の代表的な中国語作家とその作品を紹介し、広い視点で中国語圏の現代文学を知ることができるよう編まれた案内書である。作家ごとの「作家ファイル」や「作品データ」等を用意し、便利で信頼できるミニ事典としても利用できるような心がけた。

欧文タイポグラフィへの招待(仮)

河野三男著 A5判・978-4-89476-963-2

「英語文書の種類と基本形式」について、表記の慣例と共に書籍の構成に即して解説しているタイポグラフィ(活字の扱い方)入門書。英米の定評あるスタイル・マニュアルを範としつつ、文科系の英語文を誤解なく読みやすく「活字で書く」方法を紹介。エディトリアル・デザインなど雑誌の組版や広告類にも通用する、デザイン的要素の濃いディスプレイ用組版と特殊な組版も新たな章を設けて解説。注や参考文献で専門的情報を追加提供。〈書籍原稿の執筆にも有益。〉

立教大学 日文叢書 1 小劇場演劇とは何か(仮)

後藤隆基編 978-4-89476-972-4

近代日本演劇史に〈小劇場演劇〉を位置づけ、その流れを辿る。さらに歴史的観点とともに、現在においてどのような劇団がどのような活動をしているのか、現代の小劇場演劇の諸相についても考察する。また、日本に留まらず世界の小劇場演劇の様相についても概説し、総合的に小劇場演劇について理解を深めることができる一冊。執筆者：石川巧、内野儀、梅山いつき、加藤敦子、後藤絢子、後藤隆基、篠崎直也、嶋田直哉、相馬千秋、高萩宏、仲田恭子、中村邦生、那須佐代子、新野守広、早船聡、日置貴之、細井尚子、堀切克洋、松本和也

みる・よむ・きく 南の島ことば絵本 [全4冊]

ディラブディ

山田真寛・山本史・與那覇悦子著

A4判・978-4-8234-1050-5 定価1,600円+税

与那国島の民謡を元にした与那国語による創作物語。与那国語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

おなかをすかせた子どもたちのために、ディラブディはたいまつを、ウデヤマとイサは銚子を持って、アブヒティ浜に魚をとりに行きました。イラブタイユ、ミサダイユ、ミーバイ、カタカシン…ウブダヌ浜に上がって突いた魚を数えると、360匹! 家族みんなでおなかいっぱい食べました。

星砂の話(ふしぬ いんのぬ はなし)

中川奈津子・山本史・内盛スミ著

A4判・978-4-8234-1051-2 定価 1,600 円＋税

竹富島に伝わる伝説。竹富語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

お母さん星とお父さん星が星の子供を生む場所に、大明神の言うことを聞いて竹富の南の海を選んだが、七竜宮神の怒りに触れてしまい…。竹富島の真っ白な美しい浜には、星の形をした砂が落ちている。この星砂がなぜ竹富にあるのか、またこれにまつわる儀式をなぜおこなっているのか。竹富島の自然や風習と神様がつながっていて、その近さがわかります。

カンナマルクールの神(カンナマルクールクぬ かむ)

下地賀代子・山本史・野原正子著

A4判・978-4-8234-1052-9 定価 1,600 円＋税

多良間島に古くから伝わる昔話。多良間語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

多良間島に生まれた絶世の美少女カンナマルクールク。島の若者たちはその美しさに、寝食を忘れるほど魅了され次々倒れていく。これを案じた守姉は、カンナマルを浜へと連れ出した。魚を焼いて食べさせている間に岩陰に隠れ、そっと見ていると…。物語の中には実在する海や拝所も出てきます。

塩一升の運(ましゅ いっしゅーぬ くれー)

横山晶子・山本史・松村雪枝・田中美保子著

A4判・978-4-8234-1053-6 定価 1,600 円＋税

沖永良部島で古くから伝わる昔話。沖永良部語の朗読音声と詳しいことばの解説付き。

浜辺で長者が昼寝していると、神様たちの話し声が聞こえてきた。集落で生まれた赤ん坊に運命を授けに行くという。女の子には塩一升の運、男の子には竹一本の運が授けられた。二人はやがて夫婦になるが、ある事がきっかけで夫が妻を追い出してしまう。数年後再会した二人はすっかり命運が分かれています…。言葉と語りの多様性を感じられる絵本です。

テキストのご案内

■テキストレベルのめやす

テキストの内容のレベルをおおまかに4段階にわけて示します。

より 専門的	日本語学	英語学	言語学一般・言語教育	スタディスキル	日本語学習教材・他
↑	ガイドブック日本語文法史 ガイドブック方言研究 ガイドブック文章・談話 ガイドブック日本語史 ガイドブック日本語史調査法			Writing for Academic Purposes	ひとりでも学べる日本語の発音
	改訂版 日本語要説 基礎日本語学 日本語の文法	Linguistics Meaning and the English Verb Language Change ベーシック英語構文文法 ファンダメンタル音声学 ファンダメンタル英語学演習	ベーシック応用言語学 概説 社会言語学 言語人類学への招待 問題を通して学ぶ 生成文法 場面とコミュニケーションでわかる日本語文法ハンドブック	これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版] ピアで学ぶ大学生の日本語表現	「大学生」になるための日本語
	新ここからはじまる日本語学 ここからはじまる日本語文法 ここからはじまる文章・談話 ベーシック現代の日本語学	ベーシック新しい英語学概論 ベーシック英語史 ファンダメンタル英語学改訂版 ファンダメンタル英語学改訂版 ファンダメンタル英文法	ファンダメンタル認知言語学 ベーシック生成文法 ベーシック語彙意味論 ベーシックコーパス言語学 [第2版] ベーシック日本語教育 使える日本語文法ガイドブック	ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション グループワークで日本語表現力アップ 協働で学ぶクリティカル・リーディング アカデミックプレゼンテーション入門	そのまんまの日本語 出会い
↓	学びのエクササイズ日本語文法		学びのエクササイズことばの科学 学びのエクササイズ認知言語学 学びのエクササイズ子どもの発達とことば 学びのエクササイズレトリック 探検！ことばの世界	失敗から学ぶ大学生のレポート作成法 はじめよう、ロジカルライティング 日本語を書くトレーニング 日本語を話すトレーニング	日本語がいっぱい ネット時代の中国語

より
入門的

ここに挙げているのは一部のテキストです。

● 日本語学

基礎日本語学

衣畑智秀編

A5判・352頁・3刷・978-4-89476-946-5
定価1,800円+税 発行2019.2

過不足のない記述で日本語学の諸分野を包括的にカバーし、日本語学を学びたい、または知りたいと思ったときに、まず一番初めに手にとるべき日本語学入門の決定版。



新ここからはじまる日本語学

伊坂淳一著

A5判・344頁・4刷・978-4-89476-710-2
定価1,800円+税 発行2016.12

入門テキストとして好評を博した1997年初版を大幅改訂。近年の言語資料を追加し、内容を全面的に改めた。現代の生きた言葉遣いを出発点に、日本語の仕組みを考える。



ベーシック現代の日本語学*

日野資成著

A5判・242頁・5刷・978-4-89476-438-5
定価1,700円+税 発行2009.4

大学の学部生を対象とした日本語学への入門教科書。分野は音声学・音韻論・意味論・語用論・日本語文法・社会言語学に渡り、学生の興味を引く新しい内容を導入した。



改訂版 日本語要説

仁田義雄ほか著

A5判・348頁・8刷・978-4-89476-468-2
定価1,900円+税 発行2009.6

好評を博した1993年の初版以降の研究動向を踏まえ、内容、装丁共に改訂。日本語のしくみや主要な事柄を、幅広いフィールドから知ることができる1冊。



ここからはじまる日本語文法

森山卓郎著

A5判・264頁・11刷・978-4-89476-174-2
定価1,800円+税 発行2000.3

日常的なことばから考えていく日本語の文法のテキスト。必須な文法事項が一通り触れられている。豊富で、最新の文献リストは、卒論の課題を見つけるときに便利。



日本語の文法*

高橋太郎ほか著

A5判・320頁・7刷・978-4-89476-244-2
定価2,400円+税 発行2005.4

日本語の文法のテキスト。教材としてのみならず、参加している著者の文法理論が手短にまとめられており、読み進めるうちに日本語文法の全体を学ぶことが出来る。



ガイドブック方言研究

小林隆・篠崎晃一編

A5判・248頁・8刷・978-4-89476-183-4
定価1,800円+税 発行2003.2

最近の方言研究の成果をふまえた方言学のテキスト。方言のしくみを扱った章を中心に、「テーマの設定」「調査の方法」「分析の方法」「参考文献」といった具体的な研究の手順を示した方言研究の入門書。



ガイドブック日本語文法史

高山善行・青木博史編

A5判・216頁・5刷・978-4-89476-489-7
定価1,900円+税 発行2010.4

「モダリティ」「係り結び」など日本語文法史の基本テーマをわかりやすく解説。日本語学だけでなく言語学、日本語教育、国語教育、古典文学など、幅広いニーズに応える。



ガイドブック日本語史

大木一夫著

A5判・264頁・3刷・978-4-89476-615-0
定価2,200円+税 発行2013.5

通史としてではなく言語の歴史を明らかにするさまざまな方法からみた日本語史の概説書。日本語を例にして、言語の歴史を明らかにする方法を多面的・総合的に概説する。



ガイドブック日本語史調査法

大木一夫編

A5判・328頁・978-4-89476-854-3
定価2,600円+税 発行2019.5

古い文献のことばから日本語の歴史を解明するための調査法マニュアル。文献の内容の読み取り方や、証拠の集め方などを具体的に説明する。日本語史の演習や卒業論文に最適。



ここからはじまる文章・談話

高崎みどり・立川和美編

A5判・276頁・3刷・978-4-89476-345-6
定価2,000円+税 発行2008.4

ケータイメールやブログ、狂言や『電車男』など日常のあらゆる場面で使用されることばをとりあげ分析する方法を学ぶ。もっとも新しい文書・談話についてのテキストブック。



● 英語学

ファンダメンタル英語学 改訂版*

中島平三著

A5判・160頁・7刷・978-4-89476-575-7
定価1,400円+税 発行2011.8

英語学入門テキストとして好評の1995年初版を大幅改訂。新たな分析法や説明法を追加。英語学の中核をなす統語論・形態論・音韻論・意味論の基礎を簡潔・丁寧に提示する。



ファンダメンタル英語学演習*

中島平三著

A5判・128頁・3刷・978-4-89476-519-1
定価1,600円+税 発行2011.2

英語の構文交替などを題材に、英語やことばを研究する際の問題発見と解決の方法を学ぶ。多くの人が英語を学んだ時に抱いたであろう疑問に取り組む、英語学の基礎テキスト。



ファンダメンタル英語史 改訂版*

児馬修著

A5判・168頁・2刷・978-4-89476-877-2
定価1,600円+税 発行2018.1

英語史入門書として好評の1996年初版を改訂。本文の加筆修正に加え、練習問題も改めた。歴史的言語変化のメカニズムを通して様々な言語学的事象への理解を深める1冊。



ファンダメンタル音声学*

今井邦彦著

A5判・240頁・5刷・978-4-89476-279-4
定価2,400円+税 発行2007.5

ロンドン大学音声学科から英語発音技能第一級証明書、国際音声学協会から音声学技能第一級証明書を授与された著者が、音声学の理論に基づく「正しい」英語の発音を伝授。CD-ROM付。



ベーシック英語史

家入葉子著

A5判・138頁・5刷・978-4-89476-349-4
定価1,600円+税 発行2007.3

英文法の不規則さは歴史によるものが多い。少し歴史を知っていれば、英語に対する恐怖感もずいぶん変わるのではないだろうか。英語を学ぶ人びとと全てのための本。



ベーシック英語構文文法

大谷直輝著

A5判・248頁・978-4-89476-940-3
定価1,800円+税 発行2019.10

近年注目を浴びる構文文法について、体系的に統括した日本では初めての概説書。構文文法の理論全体を体系的に捉えようとしている点に特徴があり幅広いテーマを扱う。



ベーシック新しい英語学概論*

平賀正子著

A5判・228頁・5刷・978-4-89476-554-2
定価1,700円+税 発行2016.1

異文化コミュニケーションという視点から、母語英語・国際英語の両面から、今や世界の共通語として認識される英語について概説する新しいタイプの英語学概論教科書。



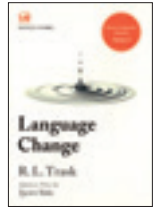
Hituzi's Linguistics Textbook Series 3

Language Change

R. L. Trask 著 家入葉子注訳

菊判・144頁・978-4-89476-999-1
定価1,700円+税 発行2019.12

現代英語を含む英語の史的変化を、語彙・発音・綴り字・文法・意味などの側面からわかりやすく解説した原著に日本語の注釈をつけたテキスト。原著のエクササイズと注釈で追加された練習問題により、英語史を主体的に学び、現代英語の変化と多様性への感覚を磨くことができるよう工夫されている。比較的容易な英語で書かれている。



● 言語学

学びのエクササイズことばの科学

加藤重広著

A5判・148頁・7刷・978-4-89476-336-4
定価1,200円+税 発行2007.3

ことばに関心のある人なら知っておきたいことや考え方、言語学というしかつめらしい学問に入門する前に気づいておくべき現実やその問題点を扱う。



学びのエクササイズ認知言語学

谷口一美著

A5判・144頁・6刷・978-4-89476-282-4
定価1,200円+税 発行2006.4

認知言語学についての重要で興味深いトピックを集め、その視点から、15章構成で認知言語学のエッセンスや考え方を学ぶ入門書。



ファンダメンタル認知言語学

野村益寛著

A5判・208頁・2刷・978-4-89476-608-2
定価1,600円+税 発行2014.5

言語とは、世界を〈意味〉として捉える認知の営みを可能にする記号の体系である。認知言語学の基本を、英語および日本語の語彙・文法の現象を通して紹介する入門テキスト。



ベーシック生成文法

岸本秀樹著

A5判・160頁・5刷・978-4-89476-426-2
定価1,600円+税 発行2009.3

英語だけでなく日本語の言語現象を通して、生成文法の考え方を学ぶことができ、人文系以外の学生にも、文法について考えるきっかけを与えることを意図する、学部生向けの教科書。本書を基にした英語版 *Analyzing Japanese Syntax: A Generative Perspective* (p.13) も刊行。

■ Kindle 版も発売中。



ベーシックコーパス言語学 第2版

石川慎一郎著

A5判・288頁・978-4-8234-1093-2
定価1,700円+税 発行2021.3

英語と日本語コーパスの両者に目配りしつつ、コーパス構築の理念やコーパスを生かした言語研究の方法について、コーパス言語学を初学者にも分かりやすく平易に解き明かす。



ベーシック応用言語学

L2の習得・処理・学習・教授・評価

石川慎一郎著

A5判・368頁・978-4-89476-795-9
定価1,800円+税 発行2017.3

個別的に論じられることの多かった、第2言語(L2)の習得・処理・学習・教授・評価の問題を統合的に位置づけ、平易な解説で幅広い知識の必要な応用言語学の全体像を示す。



学びのエクササイズ子どもの発達とことば

伊藤崇著

A5判・160頁・978-4-89476-855-0
定価1,600円+税 発行2018.5

家庭内での会話や学校での授業など、0歳から18歳までの子どもが会う多様な社会的場面で起こるコミュニケーションから、言語発達過程にひとつの筋道を読み解く。



概説 社会言語学

岩田祐子・重光由加・村田泰美著

A5判・328頁・5刷・978-4-89476-637-2
定価2,200円+税 発行2013.3

社会言語学とは何を研究する学問なのか、社会言語学を学ぶことで言語や言語の背景にある社会・文化について何がわかるのかについて、学部生にもわかるように書かれた入門書。



言語人類学への招待

ディスコースから文化を読む

井出里咲子・砂川千穂・山口征孝著

A5判・264頁・978-4-89476-965-6
定価2,400円+税 発行2019.7

アメリカ合衆国を発祥の地とし発展してきた言語人類学の概説書。ことばの使用実践から多様な言語観・世界観を明らかにし、変わりゆく文化社会を捉えるための視座を提供する。



● 英語学習

Critical Reading through Collaborative Learning*

舘岡洋子監修 津田ひろみほか著

B5判・128頁・978-4-89476-930-4
定価2,200円+税 発行2019.3

協働学習で学ぶ英語リーディングのテキスト。様々なメディアから厳選した英文記事を収録。学習者が身近に感じられる話題をとおして英語によるアクティブラーニング型授業を提案する。



脱文法 100トピック 実践英語トレーニング

中山誠一ほか著

A5判・320頁・3刷・978-4-89476-858-1
定価1,600円+税 発行2017.5

文法の知識に頼らない「瞬間トランスレーション法」という独自の手法をとり入れ、「食」「旅行」「テクノロジー」など100種類の話題を収録した、英語実践練習のテキスト。



● スタディスキル

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法*

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

B5判・132頁・4刷・978-4-89476-970-0
定価1,600円+税 発行2019.4

大学初年次を対象としたレポート作成法のテキスト。学生が失敗しがちな例を挙げながら、レポートにふさわしい表記、引用ルールから作成プロセスまで基礎から段階的に学ぶ。■ Kindle 版も発売中。



日本語を書くトレーニング*

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・2版4刷・978-4-89476-177-3

定価1,000円+税 発行2014.12

変化した学生生活や時代に合わせてアップデートした定番テキストの改訂版。メールで先生に問い合わせをする、レストランのメニューをわかりやすく作り直すなど、日常生活に密着した言語活動をサポートするテキスト。■ Kindle 版も発売中。



日本語を話すトレーニング*

野田尚史・森口稔著

A5判・128頁・5刷・978-4-89476-210-7
定価1,100円+税 発行2004.3

日本語を話すときに、なるべく効率よく、なるべく相手を不快にさせないで話すにはどうしたらよいかを普通の人あまり上手に話していない音声聞くことにより考える。



これから研究を書くひとのためのガイドブック 第2版

ライティングの挑戦 15週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

A5判・274頁・978-4-8234-1089-5
定価2,000円+税 発行2021.2

「思考を整理して、分かりやすく、科学的に」伝えるための技能や文献研究、テーマの設定から論文の評価まで段取りをマスターできる。■ Kindle版も発売中。



Writing for Academic Purposes

英作文を卒業して英語論文を書く

田田野彰ほか編

A5判・216頁・4刷・978-4-89476-490-3
定価2,000円+税 発行2010.4

大学・大学院生対象の英語論文の書き方ガイド。論文の構造や概念の解説、資料収集法、読書法など幅広い視点から、論文を作成するために必要なスタディスキルの向上を図る。



ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション*

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著

B5判・168頁・4刷・978-4-89476-471-2
定価1,500円+税 発行2012.2

大学入学後の初年次教育や入試・編入の小論文指導などに適した活動型教科書。本を批判的に分析するグループワーク等、各課のタスクをピア活動を通じて行う。練習問題も豊富。■ Kindle版も発売中。



ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]*

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

B5判・150頁・6刷・978-4-89476-709-6
定価1,600円+税 発行2014.7

相手に伝わるレポートの書き方・発表のし方を身につけるための実践的表現活動をタスク化したテキスト。大学一年生が日本語表現やスタディスキルの基礎を学ぶのに最適。第2版の主な変更点は本書ホームページ参照。 <https://www.hituzi.co.jp/hituzibooks/ISBN978-4-89476-709-6.htm>
■ Kindle版も発売中。



グループワークで日本語表現力アップ*

野田春美ほか著

A5判・176頁・4刷・978-4-89476-802-4
定価1,400円+税 発行2016.3

グループワークを活用した大学初年次向けの文章表現のテキスト。文章表現の基本的な知識や姿勢からレポート執筆まで、豊富な課題で楽しく学び、効果的に習得できる。



はじめよう、ロジカル・ライティング*

名古屋大学教育学部附属中学校・高等学校
国語科著 執筆協力・戸田山和久

B5判・224頁・5刷・978-4-89476-700-3
定価1,600円+税 発行2014.5

『論文の教室』の戸田山和久名古屋大学教授と意見交換しながら作った、中学生から社会人までを対象とする日本語表現の教科書。「論理的」とはどういうことかに始まり、他者の意見やデータを分析し、自己の主張や提案につなげるまでを身につける。



● 文学

学びのエクササイズ文学理論*

西田谷洋著

A5判・168頁・3刷・978-4-89476-703-4
定価1,400円+税 発行2014.4

文学を読む、論じるための主要な理論を15の章に分けて解説。国内外の研究成果をコンパクトにまとめ、興味のある章から文学理論とはどのようなものかを知ることができる一冊。



テキスト分析入門

小説を分析的に読むための実践ガイド

松本和也編

A5判・264頁・4刷・978-4-89476-836-9
定価2,000円+税 発行2016.10

小説はストーリーや主題を読むだけではなく、小説を構成することばが、どのように小説の面白さを作り出しているのか、その仕掛けや技術を分析する方法を具体的に解説。



小説を読むための、そして小説を書くための小説集

読み方・書き方実習講義

栞原丈和著

四六判・244頁・978-4-89476-945-8
定価1,900円+税 発行2019.4

語り論・読者論・インターテクスチュアリティなどの文学理論の基礎をふまえて、実際に短篇小说を読み、またそのパロディを書くことを通して書き方を学んでいく。



● 日本語教育

ベーシック日本語教育

佐々木泰子編

A5判・336頁・10刷・978-4-89476-285-5
定価 1,900 円＋税 発行 2007. 4

コミュニケーション重視となった新しい日本語教育能力検定試験に対応した日本語教授法のテキスト。言語の仕組みなど、従来から重要視されている必須の事柄についても丁寧に扱っている。



テーマとタスクを融合させた新しい中級日本語総合教科書。本冊は留学生として一度は考えて欲しい、日本社会・文化に関する6つのテーマと、テーマ理解を深めるための4つのタスクから成る。別冊は、本冊でのテーマ学習とタスク活動に必要な文型や話し言葉の表現・ストラテジーを取り上げ、本冊だけでは明示的に学べない言語知識が補充できるようになっている。■ Kindle 版も発売中。



そのまんまの日本語

自然な会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

B5判・140頁・978-4-89476-921-2
定価 2,000 円＋税 発行 2020. 3

実際の会話をもとに、わざとらしくない本物の会話で作った中級学習者向けの日本語会話教科書。日本人のコミュニケーションの実際と、今の日本語の本当の姿をつかみとる。音声 CD 付。■ Kindle 版も発売中。



「大学生」になるための日本語1・2

堤良一・長谷川哲子著

1: B5判・192頁・4刷・
978-4-89476-435-4

定価 1,900 円＋税 発行 2009.10

2: B5判・252頁・3刷・
978-4-89476-462-0

定価 1,900 円＋税 発行 2010.11

日本の大学進学希望の日本語学習者対象にしたテキスト。生教材をもちいた読解文、より自然な会話を目指した聴解 CD、豊富なタスクの練習により四技能を総合的に養える 1 冊。



日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】＊ 【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

本冊: B5判・224頁・4刷・

978-4-89476-758-4

定価 3,000 円＋税 発行 2015. 5

別冊: B5判・144頁・4刷・

978-4-89476-801-7

定価 1,800 円＋税 発行 2016. 3



書名の最後に★印のあるものには、授業のためのヒントや解答をご用意しております。ここに掲載したもの以外のテキストについては、下記の URL をご覧ください。ご採用をご検討くださいます場合には、採用見本をお送りします。別紙の採用見本請求書をご利用下さい。

<https://www.hituzi.co.jp/saiyou/index.html>

雑誌「日本文学」発売中

日本文学研究および国語教育の今日的な課題を追求する日本文学協会発行の機関誌。日本文学と国語教育にかかわる研究論文・実践報告・エッセイ等を掲載しています。月刊。

2020年11月号 特集・フェミニズム／ジェンダー—フェミニズム再燃のなかで、「家長長制」の視点から文学を再考する／2021年2月号 特集・古代文学研究—この半世紀を問う／3月号 日本文学協会第73回大会(誌上開催) 国語・文学教育のこれから—学びの場をつなぐ

※弊社では直接販売しておりませんので、ご注文は、お近くの書店または日本文学協会 (<http://nihonbungaku.server-shared.com/>) までお願いいたします。



製作協力した電子学術雑誌

ひつじ書房は、編集を行っていませんが、今後、学術情報の発信に際し、電子的な発信が求められることがあると考えて製作を協力しました。動画や音声、詳細な画像などを扱った学術成果の発表の場を作りたいと考えています。

日本語音声コミュニケーション 9 (日本語音声コミュニケーション学会)

目次

中国語母語話者による日本語名詞アクセントの生成—アクセント型別の難易度と拍数による難易度について(王睿来・ALBIN Aaron・林良子)／リピートと自己モニターを取り入れた日本語アクセント訓練の効果に関する実験的検証—中国語母語話者を対象として(王睿来・ALBIN Aaron・林良子)／研究ノート 解任決議案を提出された委員長の指名発話の特徴(宿利由希子)

ひつじ書房ウェブマガジン 未草 (ひつじぐさ) のご案内

言語や文学ほか、ことばに関わる幅広いテーマについての連載をまいります。

◇連載中タイトル

- ・オノマトペハンター おのはん！ 平田佐智子
- ・外国人労働者の受け入れに日本語教育は何ができるか 田尻英三
- ・古代エジプト語のヒエログリフ入門：ロゼッタストーン読解 宮川創・吉野宏志・永井正勝
- ・認知文法の思考法：AI時代の理論言語学の一つのあり方 町田章
- ・並行世界への招待：現代日本文学の一断面 加藤夢三
- ・言語展示学～ことばの宇宙を届けたい 菊澤律子
- ・「やさしい日本語」は在留外国人にとって「やさしい」のか？ 永田高志
- ・Letters: Black sheep white sheep (往復書簡のページ)
- ・BOOK REVIEW: STRAY SHEEP (書評ページ、詳しくは下を参照)



<https://www.hituzi.co.jp/hituzigusa/>



◇現在公開されている書評

- ・何を聴き、何を書き留めるのか：トランスクリプトから立ち上がる「発話の権利」
(書評 『発話の権利』 定延利之編) 評者：吉田悦子
- ・「面白くて心とらえる……」:A Descriptive Study of the Modern Wolaytta Language (若狭基道著) 書評
評者：熊切拓
- ・言語研究におけるソーシャル・ディスタンス：書評 中山俊秀・大谷直輝 (編) 『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点—用法基盤モデルに基づく新展開』 評者：定延利之
- ・用法基盤モデルから日本語学・日本語教育は何を学べるか：書評 『認知言語学と談話機能言語学の有機的接点』 (中山俊秀・大谷直輝編) 評者：森篤嗣
- ・書評 『発話の権利』 (定延利之編) 評者：田上孝一
- ・書評 『重複の文法的研究』 (程莉著) 評者：大谷直輝
- ・書評 『漫画に見られる話しことばの研究 日本語教育への可能性』 (福池秋水著) 評者：小林美恵子
- ・書評 土屋智行著 『言語と慣習性—ことわざ・慣用表現とその拡張用法の実態—』 評者：小松原哲太
- ・書評 海老原志穂 (著) 『アムド・チベット語文法』 評者：鈴木博之
- ・メアリー・シュレツペグレル (著) / 石川彰・佐々木真・奥泉香・小林一貴・中村亜希・水澤祐美子 (訳) 『学校教育の言語—機能言語学の視点』 書評 評者：渡辺哲司
- ・書評 高梨克也 (監修) フィールドインタラクション分析 1 高梨克也 (編) 『多職種チームで展示をつくる—日本科学未来館『アナグラのうた』ができるまで』 評者：林良子・定延利之・小林ミナ
- ・ご惠贈御礼 『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』 評者：松浦年男
- ・書評 酒井順一郎著 『日本語を学ぶ中国八路軍』 評者：田中寛

電子教科書について

教科書の電子化をすすめています。
順次、電子教科書と書店を増やしていく予定です。

■ 電子書店

現時点では以下の書店で電子版を発売中です。

〈個人の方向け〉

- Kindle (Amazon.co.jp / Amazon.com)
- Google Play ブックス (Google)
- Knowledge Worker (丸善雄松堂)

〈学術機関向け〉

- Maruzen eText Service (丸善雄松堂)
- 丸善雄松堂が提供する教室・講座単位での電子教科書配信サービス。

■ 電子教科書タイトル一覧

2021年5月時点での電子教科書一覧です。電子化のリクエストがございましたらおよせください。

ピアで学ぶ大学生の日本語表現 [第2版]

プロセス重視のレポート作成

大島弥生ほか著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

ピアで学ぶ大学生・留学生の日本語コミュニケーション

プレゼンテーションとライティング

大島弥生ほか著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

失敗から学ぶ大学生のレポート作成法

近藤裕子・由井恭子・春日美穂著

配信書店: Kindle

日本語を書くトレーニング

野田尚史・森口稔著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

これから研究を書くひとのためのガイドブック [第2版]

ライティングの挑戦 15 週間

佐渡島紗織・吉野亜矢子著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

そのまんまの日本語

自然談話コーパスの会話で学ぶ

遠藤織枝編 阿部ひで子ほか著

配信書店: Kindle / Google Play ブックス

日本で学ぶ留学生のための中級日本語教科書

出会い 【本冊 テーマ学習・タスク活動編】
【別冊 文型・表現練習編】

東京外国語大学留学生日本語教育センター著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

使える日本語文法ガイドブック

やさしい日本語で教室と文法をつなぐ

中西久実子・坂口昌子・大谷つかさ・寺田友子著

配信書店: Kindle

ひとりでも学べる日本語の発音

OJAD で調べて Praat で確かめよう

木下直子・中川千恵子著

配信書店: Kindle

ベーシック生成文法

岸本秀樹著

配信書店: Kindle / Knowledge Worker / Google Play ブックス / Maruzen eText Service

→ *Analyzing Japanese Syntax* も Kindle 版発売中。

教科書以外の電子本や電子書店の詳細はこちらからご覧ください。
<https://www.hituzi.co.jp/ebook/>

